

バイオエシックスと医学史の邂逅



医学部・解剖学講座 主任教授

竹田 扇

TAKEDA, Sén

URL : <https://researchmap.jp/drmedsta>

人文科学

板橋キャンパス

キーワード：バイオエシックス、解剖模型、医学史、デカルト

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

解剖学という分野はヒトの死体を扱います。篤志献体と呼ばれる制度のお陰で医学生は模型からではなく、本物から人体の構造を学ぶことが可能となります。解剖学には *Hic gaudent mortui viventes docere* (ここで死者は生者に喜んで教える) というラテン語のことばがありますが、これは献体制度の理想を語ったものであるといえましょう (文献 [1])。一方で古くから解剖模型も使われてきました。

それでは解剖模型の意味はどこにあるのでしょうか。それは実体の複雑性を捨象し、本質的な部分を表象化して概念に転化し知識を体系化することではないかと考えられます。その様な観点から解剖模型について医学史的な研究を行っています (発表 [2])。またそこにはヒトを機械として捉える思考が横たわっていると考え、人体を機械論的に解釈した一人である Descartes, R. の医学論の翻訳と論考を上梓しました (文献 [3])。

一方生命科学の進歩と共に、これまでの生命倫理を超えた新たなバイオエシックスの思考が必要とされる時代になりました。これに関しての論考 (文献 [4]) や、欧米の影響を受けながら日本のバイオエシックスがどう展開してきたかを当事者にインタビューしてその源泉を探る試みも行いました (文献 [5])。

今後は医学史、解剖模型、人体観、細胞概念の形成 (文献 [6]) などを結節点として新たなバイオエシックスの可能性を論じていきたいと考えています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヒトの身体を巡っては生体、死体共に様々な問題に直面しています。生きている身体に関しては臓器移植、生殖医療、エンハンスメント医療、脳死など、死んだ身体に関しては献体の不適切使用、途上国からの死体売買、死体の興行的展示などです。本研究はこれらの問題に対しても多角的な対応策を提示することが可能となります。

知的財産・論文・学会発表など

- [1] **Takeda S.** Hic gaudent mortui viventes docere. Editorial. *Anat. Sci. Int.* 97: 233-234. 2022.
- [2] **竹田 扇** 実在から表象へ：Anatomie clastique と近代日本の解剖学. 第 122 回日本解剖学会学術総会シンポ. 2017.
- [3] 山田 弘明、香川 知晶、**竹田 扇** 他：デカルト医学論集. 法政大学出版局. 2017.
- [4] **竹田 扇** バイオエシックスの展望. (坂井 昭宏、松岡 悦子編) 東信堂. 2004
- [5] **竹田 扇** 生命倫理の源流. (小松 美彦、香川 知晶 編). 岩波書店. 2014.
- [6] **竹田 扇** 医学史事典 (日本医史学会 編) 丸善出版. 2022

アジアの国際関係史



経済学部・国際経済学科学科 教授

ミシュラン フランク MICHELIN, Franck

URL : <https://franckmichelin.academia.edu>

人文科学

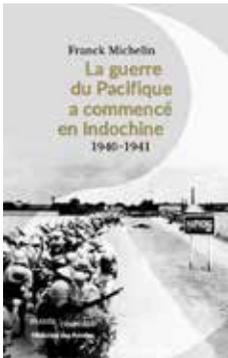
八王子キャンパス

キーワード：歴史、国際関係、アジア、太平洋

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要



主な研究のテーマは「近現代における日本と世界」です。太平洋戦争勃発の要因である日本の「仏印進駐」を研究してきました。いわゆる「仏印進駐」という出来事を研究しながら太平洋戦争勃発への道を分析してきました。

現在「日本の軍事史」と「日本国民の歴史」について本を2冊執筆中です。

これから「東アジアにおける海の歴史」に関する研究への展開を検討しています。現在の東・南シナ海の緊張を考え、研究テーマとして海の歴史を研究していきたいと考えています。

また、近現代の日本とアジア、アジア太平洋戦争以外、「渋沢栄一と東北の近代経済の発展」について研究計画を立てているところです。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

科学技術は世界の発展に大きく貢献するに違いありません。しかし、人文社会科学の教育や研究に力を入れない国が最終的に上手く行かない多くの例を挙げられます。その中で、歴史学は非常に重要な役割を果たさなければならないと考えております。「過去を覚えていない人は、過去を繰り返す運命にある」という歴史哲学者のジョージ・サンタヤーナの名言は、将来を築くためにどのぐらい歴史が大事なのか、示唆しています。各学生の教養だけでなく、皆さんが生きていく上で自国だけでなく、他国の歴史を考える力を持てば、より賢明な選択をすることができると思っています。

知的財産・論文・学会発表など

- 「日中戦争から見たウクライナ戦争」、*Revue Défense Nationale* 誌、853号、2022年8月、105～109頁(仏語)。
- 「日本の海上自衛隊」、*Diplomatie* 誌、「Les grands dossiers」、68号、2022年6月、86-87頁。
- 「太平洋戦争はインドシナで始まった」『日仏文化』91号、日仏会館、2022年3月、129～144頁。
- 「秋田の渋沢栄一」『日仏文化』91号、日仏会館、2022年3月、152～157頁。
- 「太平洋戦争—欧州大戦は世界大戦となった時」『違う視野からの第二次世界大戦』Buchet-Chastel 出版、2022年(仏語)。
- 『太平洋戦争—インドシナから始まった— 1940～1941年』Passés Composés 出版、2019年(仏語・日本語版出版準備中)。
- 「渋沢栄一と東北地方の資本経済の発展—研究計画の紹介」、*Revue française d'histoire économique* 誌、2019年1巻(11-12号)、190～202頁(英語)。
- 「フランス高等教育の特色」単著、『留学交流』、日本学生支援機構、第20巻第12号(ヨーロッパへの留学)、2008年12月、18～21頁。
- 「フランスにおける日本近現代史研究の動向」単著、『歴史としての日本国憲法年報・日本現代史』第11号、現代史料出版、2006年5月、243～261頁。

米国の中東政策



経済学部・経営学科 教授

岡本 道郎

OKAMOTO, Michiro

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.40b22e5a305ca1a8.html>

八王子キャンパス

キーワード：中東、イラン、イスラム、アラブ、湾岸、米国、外交、安全保障、日本、民主主義

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

地政学的重要性が高く、日本の国益にも直結した地域である中東において、20世紀後半から大きな影響を与えてきた超大国米国の中東政策をフォローしている。

1970年代以降、英国に代わり中東安全保障を担ってきた米国の中東政策に焦点を当て、イラン革命、イラン・イラク戦争、湾岸危機・戦争、9・11後の対テロ戦争、イラク戦争、イラン核合意・離脱などの経緯を歴代政権ごとに検証。現政権の政策も注視している。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本の中東戦略、対米外交への指針、視座

知的財産・論文・学会発表など

▽学術論文 “U.S. MIDDLE EAST POLICY AND JAPAN'S INTERESTS IN THE POST-COLD WAR ERA” Michiro Okamoto June 2001, USJP Occasional Paper 01-04 Program on U.S.-Japan Relations, Harvard University

▽著書「ブッシュ VS フセイン イラク攻撃への道」(2003年3月、中公新書ラクレ、中央公論新社)

▽季刊「読売クォーター」論文

「アメリカ中東戦略の歴史的転換」(2015秋号)、「機関誌『ダービク』から読み解く『イスラム国』の論理と限界」(2016春号)、「トランプ流中東戦略を読む」(2017春号)、「米国の凋落と『新冷戦』」(2019冬号)、「イラン革命40年の意義と限界」(2019春号)、「『トランプ後』中東政策の障壁」(2021冬号)ほか

史実と文化的事象としての切腹の研究



文学部・日本文学学科 准教授

コルネーエヴァ スヴェトラーナ KORNEEVA, Svetlana

URL : <https://researchmap.jp/Sveta>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：文化史、切腹、歴史社会学、紛争の処理法、責任論

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

研究の概要

切腹を主な対象に、日本人らしさに迫るべく研究を目指している。行政文書をはじめ様々な古記録を材料に、表現方法、資料における言及の仕方の分析を通して、社会制度における切腹の位置づけと社会通念上の認識の生成・確立・変遷を追究している。

- ①江戸時代の切腹の法制的な側面に焦点を当て、他の死刑手段との比較を視野に入れて、藩レベルでの切腹判決について調べている。
- ②表象文化としての切腹のイメージ形成の一端に迫ることを目的に、切腹が文芸作品や演劇、映画などにおいてどのように描かれているのかについて研究を進めている。



切腹の場面 (Silver, J. M., *Sketches of Japanese Manners and Customs*, 1867年)



腹を切る場面 (井原西鶴著『男色大鑑』1687年、早稲田大学所蔵)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

広く言えば、人と人の関わり、とりわけ争いの処理法が研究テーマである。その中で意志決定や合意形成の過程、トラブルの事後処理について江戸時代は多くの具体例を呈している。研究で得た知見を共有し、組織にとって有効な対処法は何か、先手が打てる危機管理体制の構築への助言という形で寄与できる。イノベーションに必要な多角的な考え方のトレーニングにもつながる。

知的財産・論文・学会発表など

論文 2018年3月「切腹にまつわる語彙と概念について—近現代の日本と海外の辞典と研究史を中心に—」『帝京大学文学部紀要』日本文学第49号, pp. 90-63.

2019年10月「切腹の形式化について—発生から江戸時代初期頃までを中心として—」『帝京日本文化論集』第26号, pp. 1-42.

学術発表 「刑罰的切腹時の死装束の色—『浅葱』と『浅黄』の表記を中心として—」、服飾文化学会第21回大会、2020年11月7日

民俗芸能のネットワーク研究



文学部・日本文化学科 講師

高久 舞

TAKAHISA, Mai

URL : <https://researchmap.jp/takahisa.mai.bh>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：民俗学、民俗芸能、都市民俗学

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

なぜ人は芸能を行い、伝えようとしているのか」という問いが私の研究の主題です。能楽や歌舞伎のような伝統芸能、各地で伝わる民俗芸能など日本各地には様々な芸能が伝えられています。芸能は生命を維持するための衣食住に直接関係ないはずですが。にもかかわらず伝えられているには何かしらの意味があるはずですが。

各地で伝わる芸能はそこで住む人々の文化が息づいています。少子高齢化、若者の流出など地域社会のあらゆる問題は、芸能にも大きな影響を与え、後継者不足で続けられないところも増えています。民俗芸能の演者に着目し、人から人へ、人から地域へと広がるネットワークの形成について研究することで、多様な伝承の在り方を探っています。

人がいなくては伝えられない、集まらなくてはできない芸能や祭り・祝祭を通して、効率性・必要性が重視される現代社会を問い直す必要があると考えます。



2017年八王子まつり



2016年八王子 四谷龍頭の舞



2019年渋谷ハロウィン

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ハード面だけではなくソフト面を充実させることが地域の活性化につながります。そこに住み、芸能を伝える人々に対して長年フィールドワークを行ってきました。現場の声を聞き、学術的に捉えることが研究者の役割だと考えています。行政と市民と研究者がそれぞれの立場から意見を出し、よりよい社会を作っていくことの重要性を感じています。また、都市部においては行政だけでなく企業との関係も重要です。渋谷のハロウィンも若者文化として捉えながら、企業も含めて考えていかなくてはならない文化の一つと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

- 2016 『芸能伝承論—伝統芸能と民俗芸能の演者と系譜—』岩田書院
- 2022 「八王子市の神楽師と芸能」『帝京大学文学部紀要 日本文化学』53号
- 2020 「八王子市における囃子と町会組織の関係性」『多摩のあゆみ』180号
- 2019 「渋谷における祝祭の行方」『現在学研究』2号

ほか

近代日本の政治と文化



文学部・日本文学学科 教授

筒井 清忠

TSUTSUI, Kiyotada

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：近代日本、政治、文化

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

第1次大戦後の軍縮平和主義の時代を迎え抑圧されていた軍部はなぜその後台頭し昭和の軍国主義全盛期を迎えたのか。

また、第二次護憲運動を経て成立していった戦前日本の二大政党政治は5・15事件のため8年で終わってしまいますが、これもなぜなのか。

加藤高明内閣から犬養毅政友会内閣に至る各内閣の政策・実態と、天皇・宮中・外交・軍部とくにマスメディア・知識人の役割に注目し検討していきます。

さらに2・26事件を経て日中戦争・太平洋戦争へと進んでいく戦争の時代を政治だけでなく文化を含めて明らかにしていきます。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

近代日本史・昭和史の研究は様々な歴史認識の問題と絡んで現代人には必須の教養となってきました。その際、重要なことはイデオロギー・政治的立場にとらわれず正確な資料に基づいた研究を尊重していくことです。この視点からのみ実際の社会に役立つ研究となると思います。

知的財産・論文・学会発表など

- ・『西條八十』（中央公論新社 [中公叢書]、2005年、中公文庫 2008年）
- ・『近衛文磨—教養主義的ポピュリストの悲劇』（岩波現代文庫、2009年）
- ・『昭和戦前期の政党政治—二大政党制はなぜ挫折したのか』（筑摩書房 [ちくま新書]、2012年）
- ・『敗者の日本史 19 二・二六事件と青年将校』（吉川弘文館、2014年）
- ・『戦前日本のポピュリズム 日米戦争への道』（中央公論新社 [中公新書]、2018年）
- ・『昭和史講義 戦後分化著』（編著、ちくま新書（上・下）、2022年）
- ・『天皇・コロナ・ポピュリズム 昭和史から見る現代日本』（ちくま新書、2022年）

日本語をさまざまな視点で観察する (日本語学・日本語教育)



文学部・日本文学学科 教授

中沢 紀子 NAKAZAWA, Noriko

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.101648534eb0c6c3.html>

八王子キャンパス

キーワード：日本語史、江戸語、キリシタン資料、日本語教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

現在は、主に2つの観点から研究を行っている。

①日本語史

主に中世末～近世における言語資料（キリシタン資料や江戸語資料）を用いて分析している。キリシタン資料では、助詞や格成分の脱落といった文法的側面に焦点を当てている。また、江戸語資料では、洒落本、滑稽本、人情本を中心に「言わない」「言わねえ」「大学（だいがく）」→「でえがく」となるような接続母音の長母音化<図1>という現象について考察を進めている。

②日本語教育

日本文学学科では、交換留学生、私費留学生が多数在籍している。そこで、交換留学生に対してインタビュー調査を実施し、日本語使用実態について分析している。交換留学生の日本での生活及び日本語使用場面を探りつつ、学生生活の充実がはかれるよう、積極的に推し進めている<写真1>。

<図1>

接続母音の長母音化

あぶない→あぶねえ
おまえ→おめえ
塩梅(あんばい)→あんべえ
面白い(おもしろい)→おもしろえ
書かない→かかねえ

<写真1>：留学生に居合を教えるゼミ生



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

今後、外国人留学生及び外国人材の増加が見込まれる。留学生へのインタビュー調査を読み解くことによって、外国人が生活しやすい、学びやすい環境作りが提案できることを期待する。

知的財産・論文・学会発表など

<論文>

中沢紀子(2021)「『七偏人』における否定助動詞」、『帝京日本文化論集』28, pp. 92-82, 帝京大学日本文化学会。

<国際学会発表>

中沢紀子(2019)「交換留学生の大学生活と日本語使用について」『日本語教育』88, pp. 17-26, 韓国日本語教育学会。

戦前～占領期にかけての日本アニメーションに関する包括的な研究



文学部・日本文化学科 講師
萩原 由加里 HAGIHARA, Yukari

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：アニメーション、漫画、ライトノベル

研究の概要

①『漫画映画入門』の公開にむけた研究

政岡憲三が、手塚治虫の依頼でアニメーター向けに執筆した教科書が『政岡憲三動画講義録』である。

近年、この『政岡憲三動画講義録』の草稿である『漫画映画入門』の現存が確認されている。これらの資料をもとに、勃興期のTVアニメ業界でアニメーター養成がどのように行われたのを明らかにしていく。

②日本におけるプロパガンダ・アニメーション概説史の執筆

特定の作品や作者に限定するのではない、日本におけるプロパガンダ・アニメーションについての概説的な研究を進めていくことで、日本アニメーション界によるプロパガンダへの協力の問題を考えていく。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

幅広い教養を身につける手段としてアニメーションを中心とした映像分野を積極的に活用している。学生たちが子供のころから慣れ親しんできた分野を授業の中に取り入れることで、学術的に物事を考えるきっかけをつくっていく。

アニメーションを教育の導入部として取り上げ、表現手法等のつながりから歴史的、もしくは海外のアニメーション作品も紹介していく。あえて海外の作品も見ること、「アニメーション」という限られたジャンルにも多様性がある事を知り、国や時代の文化や社会状況が作品に反映されていることを学んでもらう。

知的財産・論文・学会発表など

著書

- ・萩原由加里『政岡憲三とその時代 ―「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』青弓社、2015年
- ・政岡憲三・萩原由加里『人魚姫の冠 絵コンテ集』青弓社、2017年

『古事記』を中心とした 日本上代文学における漢字表現



文学部・日本文学学科 助教

馬場 小百合 BABA, Sayuri

URL : <https://www.e-campus.gr.jp/staffinfo/public/staff/detail/3289/21>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：上代文学、古事記、神話、漢字、東アジア古典学

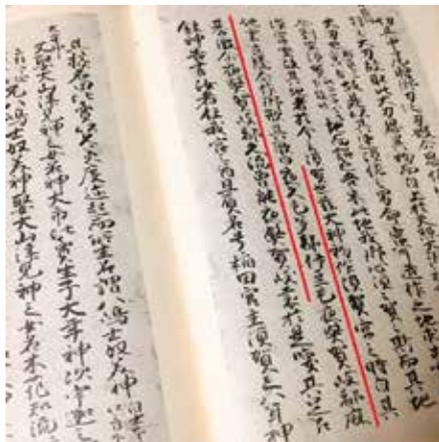
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

日本の上代文学を研究しています。上代文学というのは、ひらがなが誕生する前の時代、奈良時代までに書かれた文学作品のことを指します。主に研究対象としているのは、712年に成立した日本最古の歴史書である『古事記』です。下に載せた写真は、『古事記』の最も古い写本の影印本です。(『国宝 真福寺本 古事記』桜楓社)

ひらがなが誕生する前の時代なので、ご覧の通りすべて漢字で書かれています。『古事記』の本文は漢字によって日本語を書こうとしたものです。これは、漢字によって漢文を書いた『日本書紀』とは対照的です。仮名文の成立以前にあった「漢字によって日本語を書く」という試みは、漢字・漢文を基盤とする東アジア古典世界に組み込まれる中で、自らの言語の固有性を自覚することともなされたと考えられます。

研究においては特に『古事記』の歌が果たす役割について着目し、散文と歌による表現、さらにそれらに対応する訓と音仮名という表記の選択が『古事記』の叙述においてどのように方法化されたのか、そしてそのことが漢字によって日本語を書くという行為にどのような可能性を開いたのかを調査しています。



*写真赤線部は『古事記』上巻、スサノヲノミコトの歌

「夜久毛多都 伊豆毛夜弊賀岐 都麻基微爾 夜弊賀岐都久流 曾能夜弊賀岐袁」

(八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣作る その八重垣を)

散文部が漢字の訓によって書かれるのに対し、歌は一字一音の音仮名で書かれています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在の国語教育課程における「古典文学」は、その大半が平安時代以降の仮名文の文学作品を対象としています。しかし実際には、漢字文を用いた多様で豊かな書記の広がりもまた、仮名文同様に私たちの古典世界を一貫して支えてきたのだと言えます。そのような観点から「古典文学」を見直すことで、文学史・文学史への理解が深まることを目指しています。

知的財産・論文・学会発表など

- 「漢字によって日本語を書くことの広がりとその特徴—『古事記』の漢字表現への着目」(東アジア古典学の方法 第74回、2022年11月)
- 『『古事記』の漢字表現—『日本書紀』との比較を通じて』(東アジア古典学の方法 第67回、2021年10月)
- 『『日本書紀』の歌における仮名表記の問題』(東アジア古典学の方法 第59回、2019年11月)
- 「貴くありけり—『古事記』の豊玉昆壳の「恋心」と歌の贈答」(『帝京大学日本文化論集』25、2018年10月)

生なるコモンズと日本文化、AI 倫理



文学部・日本文学学科 教授

濱田 陽

HAMADA, Yo

URL : <https://researchmap.jp/yohamada>

人文科学

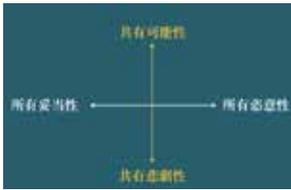
八王子キャンパス

キーワード：コモンズ、AI 倫理、共有文化、共有文明、十二支

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

『生なるコモンズ—共有可能性の世界』（春秋社、2022）、『生なる死—よみがえる生命と文化の時空』（ぷねうま社、2021）、『日本十二支考—文化の時空を生きる』（中央公論新社、2017）を著し、人文学の学際的、総合的手法によって、自然、生きもの、人、つくられたもの、人知を超えるものの五つの存在を手がかりに、パンデミック以降、AI・ロボット・生命の工学が加速する世界に通用し得る基礎概念・枠組の探求、文化諸事例の研究に取り組んでいる。



存在	自然的存在	自然物	生命物	人間物	人工物	人知物
自然的存在	自然	生きもの	人	つくられたもの	人知を超えるもの	
人間物	自然性					
生命物	生命性					
人間物	人間性					
人工物	作爲性					
人知物	超越性					

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 人間存在の核心をアルゴリズムとデータの流りに還元しない人間観、生死観の人文的探求を通じ、人工知能・生命科学社会化時代に応答しつつ、実学・産業の目標である幸福探求に洞察をもたらす。
- 自然、生きもの、人、つくられたもの、人知を超えるものが共存する諸相を、伝統文化、近代、物語を通じて学際的、総合的に明らかにすることによって、日本文化の魅力を発見し、その豊かさや多様性に新たな照明を当てる。

知的財産・論文・学会発表など

論文

- 山折哲雄・濱田陽「親鸞・道元・日蓮からアーレント＝ヤスパースを読む」（特集：文明を考える新古典）『比較文明』第38号、比較文明学会、2022年11月、3-31頁

メディア発表

- 濱田陽「AI 倫理原則の最新潮流」『中外日報』2022年11月30日付
<https://www.chugainippoh.co.jp/article/ron-kikou/ron/20221130-001.html>

学会発表

- 濱田陽「宗教が関わる AI 倫理の共有可能性」パネル「宗教における AI 等先端技術の社会実装とその課題」第79回日本宗教学会大会、2022年9月11日
- 濱田陽「コモンズの悲劇、生なるコモンズ」公開シンポジウム「文明と戦争」第40回比較文明学会大会、2022年11月26日

装いと通過儀礼からみた公家社会の子ども



文学部・日本文化学科 助教

保田 那々子 YASUDA, Nanako

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.fe2eb6c46a73f019.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：服飾、貴族、通過儀礼、子ども、幼帝

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

日本の服飾文化史、なかでも公家服飾について研究している。平成から令和への代替わりに関わる各行事でこのところ目にする機会が多かった公家の装いは、中国唐代の装いから受けた影響をいまだに色濃く残している。本来は男女の区別、成人と未成人の区別、官位の高下を装いによって表そうとしたもので、そこに日本独特の美意識や当時の社会事情が加わって、平安時代中期には現在に近い形に整えられた。

その後この公家の装いは朝廷権威の象徴となり、皇族・貴族の間で千年もの間（途中衰退の時期を経ながらも）着用され続けてきた。しかしその間の社会構造の変化と、身分表象としての公家服飾との整合性をどのようにして保とうとしてきたか、というのが研究活動における焦点である。

装いはまた、着用者の年齢階梯を示す指標ともなっており、公家の通過儀礼では特に儀式において装いを改めることに重点を置いている。この点に着目し、現在は公家社会の子どもの装いを中心に調査を行っている。特に、平安時代に初めて現れる幼帝（未成人の天皇）の装いから、平安時代中期から平安時代後期にかけての幼帝の性質の変化を考察している。今後は子どもの装いにおけるジェンダー観や、子どもという存在に対する時代的な認識の変遷に関しても検討を加えていきたい。



服飾の和様化のなかで生まれた童女の汗衫（かざみ）姿「枕草子白描絵巻」（個人蔵）（小松茂美編『日本絵巻大成 10 葉月物語絵巻・枕草子絵巻・隆房卿艶詞絵巻』中央公論社、1978年より）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

宮中儀礼で着用されることから、日本の伝統的な装いとして認識されているが、形態が和様に変化しても依然として中国文化の影響が大きいのが公家の服飾である。重ねの色目など、美しさの追求により生まれた要素も加わるものの、あくまでも中国から取り入れた数々の制度のうちのひとつである。より厳格さを必要とする場面では、より中国的要素の強い装いが要求されていた。平安時代以降の和風と唐風が併存する中で、どのようにして現在に残る「伝統」が生まれたかを考察することは、現在と未来の「伝統」の在り方を考えることに繋がっていく。

知的財産・論文・学会発表など

＜論文＞

- ・保田那々子「平安朝服飾の途絶と復活—産着細長を例に—」（『国際服飾学会誌』第55号、2019年7月）
- ・保田那々子「徳川將軍家への贈与例からみる産着細長」（『帝京大学文学部紀要日本文学』第52号、2021年7月）

＜国際学会発表＞

保田那々子「Research and Revival of the Culture in the Dynastic Age; with a Focus on Hosonaga in the Edo Period（王朝文化の研究と復古—江戸時代の細長を事例に—）」、第27回国際服飾学術会議、於・漢城百濟博物館、韓国ソウル市、2016年8月。

近世日本思想史と服制



文学部・日本文化学科 講師

リネペ アンドレ Linnepe, André

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.8a5e8ed292dd25e0.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：近世日本、政治思想、儒学、服制論

研究の概要

徳川時代の政治思想においては服制についての議論は不可欠であった。例えば、十七世紀に山鹿素行の『山鹿語類』や新井白石の『武家官位装束考』、また十八世紀に荻生徂徠の『政談』や中井竹山の『草茅危言』など数多くの資料がある。しかし、これまでの政治思想史研究においては、「政治」のより限られた概念のみが注目され、服制といった政治文化とかかわる議論にはほとんど注目がされてこなかった。

前近代の政治において服制とは官位の表示であり、ある支配体制に基づいた規範的秩序観と直接にかかわるものである。本研究は十七世紀から十九世紀始めにかけての政治思想における服制論を再構築することを目的としている。本研究では、服制論と関係する歴史的資料を集め、議論におけるキーとなる概念を検討する。

本研究によって、徳川時代の服制論と関わる一次資料の紹介と、英語への翻訳を行うことにより、国際的な研究コミュニティに貢献できると考えている。

中井履軒『深衣図解』（1765）、
出典：懐徳堂先哲著述記録類、
大阪大学附属図書館



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

我々が生きている時代には、経済活動が環境に及ぼす影響といった問題が新たに認識され、かつてない新しい秩序を考える必要に迫られている。前近代の日本政治思想における秩序観の理解を深めながら、未来の政治・社会を考えるうえで不可欠な基盤を作る。

知的財産・論文・学会発表など

本研究は JSPS 科研費 (20K12835) のプロジェクト (課題名: *Confucian Dress Regulations in Tokugawa Japan: Negotiating Alternative Conceptions of the Political and Social Order between the Seventeenth and Early Nineteenth Century*) である。

近代日本史に関する実証研究



文学部・日本文化学科 講師

渡邊 公太

WATANABE, Kota

人文科学

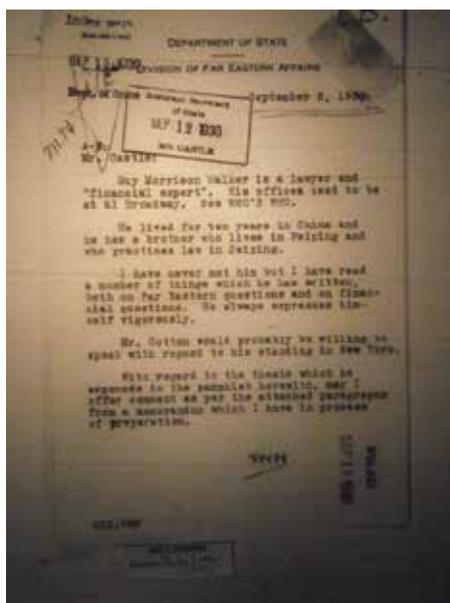
八王子キャンパス

キーワード：近代日本、マルチ・アーカイバル研究

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

主として 20 世紀前半期の歴史、とりわけ当時の日本が置かれた国際環境について研究している。



(写真はアメリカ国立公文書館蔵の国務省文書)

これまで、第一次世界大戦から戦間期にかけての日本の外交政策について、外交指導者たちの構想などから研究を行ってきた。また近現代の日本が経験した大災害と、復旧・復興に関する問題についても関心を向けている。

現在はこうした過去の研究成果を引き継ぎつつ、より幅広い視野から、近現代日本の置かれた国際環境とそれへの対応の変化について研究を進めている。そのためには、これまで以上に海外の資料や研究成果を採り入れながら、日本外交の特殊性を国際的視野から抽出することを目指している。基本的な研究手法は、国内外の資料館にある原文書を収拾・解析しながらストーリーを形成していくという、マルチ・アーカイバル手法を採用している。

こうした研究を積み重ねつつ、日本の国際的地位の確立の経緯や、現在に通じる国際社会の中での日本の役割とは何かを考えている。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

実学としての歴史とは、「年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索」するものである（福澤諭吉『学問のすずめ』）。現代日本の抱える国際問題のルーツを探ると同時に、その解決策を導く上で歴史的研究の重要性はいくら強調しても足りない。歴史を学ぶことは、「身も独立し、家も独立し、天下国家も独立」（同上）することにつながる。

知的財産・論文・学会発表など

- ・『第一次世界大戦期日本の戦時外交——石井菊次郎とその周辺』現代図書、2018年。
- ・『石井菊次郎—戦争の時代を駆け抜けた外交官の生涯』吉田書店、2023年。
- ・“Challenging the ‘Kasumigaseki Diplomacy’”『帝京大学文学部紀要 日本文化学』46号、2015年。

出土文字資料を活用した日本古代地域史の研究



文学部・史学科 教授

相澤 央

AIZAWA, Oh

URL : <https://researchmap.jp/ohaizawa>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：木簡、墨書土器、漆紙文書、地域支配、地域社会

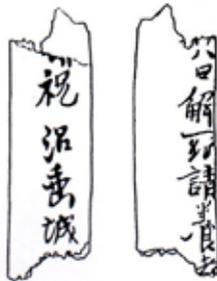
研究の概要

日本の古代国家は、多様性に富む地域をどのようにして支配したのか、古代国家の支配を受ける地域はいかなる社会であったのか。このような古代の地域支配の実態や、地域社会の実相を伝えてくれる文献資料（史料）は極めて少なく、一昔前までは考察困難な課題であった。

このような状況にあって、各地の遺跡の発掘調査によって出土する出土文字資料（木簡、墨書土器、漆紙文書など）は、古代国家による地域支配の実態や地域社会の在り方を解明するうえで極めて貴重な資料であり、いまや古代の地域史を考察する上で欠かせない資料である。

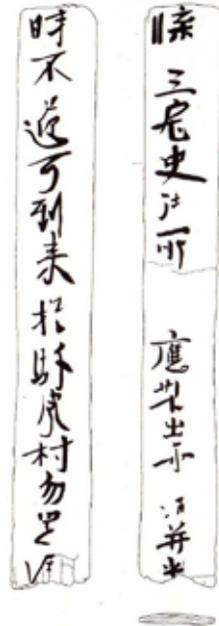
本研究では、古代国家による辺境政策や郡による民衆支配の実態、租税徴収や交通の実相、地域の開発や諸産業などについて考察している。

『日本書紀』に記された城柵「淨足柵」の実在を証明した木簡
和島村教委「八幡林遺跡」
(一九九二年)より



新潟県長岡市
八幡林遺跡出土第二号木簡

新潟県教委・県埋文事業団『箕輪遺跡2』(二〇一五)より



新潟県柏崎市箕輪遺跡出土第一号木簡

駅家の位置を限定した木簡

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

出土文字資料を活用した研究の前提として、出土文字資料の解読作業と、その史料の意義づけについての考察は不可欠である。これまでも、発掘調査を担当する自治体などからの依頼により、出土文字資料の解読を行い、その成果を発掘調査報告書等に分担執筆させていただいた。また、地域に関わる研究成果を自治体史や講演会、シンポジウムのような形で地域住民へ還元することも重要であり、これまでも多く関わらせていただいた。

知的財産・論文・学会発表など

- ・相澤央『越後と佐渡の古代社会』（高志書院、2016年）
- ・相澤央「中世の茅札と蘇民将来札」（『木簡研究』38号、2016年）
- ・相澤央「古代における調庸物の收取と運送—越後国の鮭を例に一」（『帝京史学』33号、2018年）
- ・相澤央「古代日本の雪」（『日本歴史』849号、2019年）
- ・相澤央「古代国府の成立に関する覚書」（『新潟史学』80号、2020年）
- ・相澤央「古記録にみる平安京の雪」（『帝京史学』37号、2022年）

先史時代における学習形態



文学部・史学科 教授
阿部 朝衛 ABE, Asaei

<https://researchmap.jp/read0030626>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：先史時代、子ども考古学、技能研究、資源利用形態

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

先史時代遺跡・遺物の編年・系統、石器材料などの資源利用形態、石器製作などの技能獲得方法、子どもの成長過程の研究を行っている。子どもの技能獲得方法の研究を進め、後期旧石器時代の石器製作技術に焦点をあてている。石器材料選択の適切さ、加工手順の複雑さ、道具操作の正確さ、失敗した場合の修正の適切さをもとに数段階の技能差を認識し、初期段階の下級者のものは10歳以下の子どもの作品と位置づけた。下級者は上級者が石器製作する場所の近くで作業していたと判断され、上級者の動作を見ながら学習・練習していたことは明らかである。子どもの埋葬を検討すると、副葬品を伴って丁寧に葬られており、大人と同様な社会的地位をもっていたと考えられる。また、障害を抱えた子どもであっても社会的な保護があったと推定される。

下級者



中級者



上級者



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

先史時代においても社会の再生産上、出産と養育は重要な課題である。そこには身体の成熟とともに文化の継承・変遷が関与している。後者には教育・学習活動が必須であるが、当時は大人と行動をともにしながらの能動的な子どもの学習があったと推定される。大人の活動の観察と模倣により技能や知識を獲得していたのであろう。現在の徒弟制に通じる教育形態であり、この学習と同時に社会的地位も獲得していたと予想される。H・サピエンスの誕生から約30万年が経過している。学校制度が成立するのはつい最近であることからすれば、現在においても社会との結びつきの強い上記のような実践的な学習形態も重視されるべきであろう。

知的財産・論文・学会発表など

2017「先史時代の子どもの年齢推定」『二一世紀考古学の現在』、2018「初期人類の子どもと最古の石器」『帝京史学』33、2018「原人の子どもをめぐる社会」『法政考古学』44、2019「新潟県荒川台遺跡第16次調査略報」『帝京史学』34、2022「初期新人の子ども」『法政考古学』48、その他は上記 URL 参照

・アメリカ連邦共和制の政治思想史的分析 ・ジョン・アダムズ（第二代大統領）政権期の政治史研究



文学部・史学科 教授

石川 敬史 ISHIKAWA, Takafumi

URL: <https://researchmap.jp/read0074086/>

人文科学

八王子キャンパス

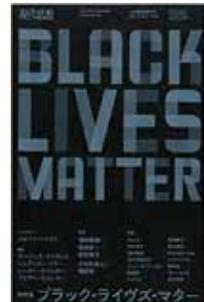
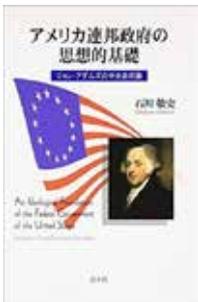
キーワード：アメリカ政治外交史、アメリカ建国史、政治思想史

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

アメリカ合衆国は、日本および世界にとって、良きにつけ悪しきにつけ重要な国家であり、世界政治に大きな影響力を有していることはすべての人々が同意するだろう。しかし、その巨大な国家規模、国民構成の多様性とそれがもたらす多面的な社会観、それに対応する複雑な政治システムなどによって、その統合的な全体像を描くのは極めて困難である。

そこで我々は、アメリカ合衆国が 18 世紀の環大西洋世界における市民革命の帰結として建国された国家であるという原則に立ち戻る必要がある。ヨーロッパの知的・文化的伝統を帯びた人々が、アメリカ大陸という新世界でいかにして自律的な共同体を構築したのか、さらに当時の環大西洋世界における諸国家との交流の中で、いかにして自らを定義し、アメリカ合衆国を建国したのかを考察し再現することによって、今日のアメリカ合衆国の行動原理を明らかにすることができるのである。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

私が現在従事している研究活動の成果は、現代のアメリカ合衆国の分析に資する基礎研究であると同時に、国際社会で活躍する人材にとっては、欠くことのできない「基礎教養」を提供するものでもある。ビジネスを行うのは人であり、そのためには、グローバルな知的コミュニティに参入することができる人材を育成する必要がある。アメリカ建国史についての知見は、こうしたコミュニティに参加するための素養の一つであり、そのための啓蒙活動にも力を注ぎたいと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

石川敬史：「アメリカ合衆国はエンパイアの夢を見るか 170 年の自由の歴史から始まった国」『中央公論』、2022 年、52-59 頁

石川敬史：「特殊にして普遍的な幻想の超大国」『アステイオン』2020-093 号、2020 年、14-29 頁

石川敬史：「連邦の維持」と奴隷制度 初期アメリカの視点から」『現代思想』10 月臨時増刊号、2020 年、275-284 頁

石川敬史：「アメリカ革命期における主権の不可視性」『年報政治学』2019- 1、2019 年、96-116 頁

石川敬史：「ジョン・アダムズの混合政体論における近世と近代」『アメリカ研究』53 号、2019 年、35-67 頁

近代日本における機密費の研究



文学部・史学科 教授

小山 俊樹

KOYAMA, Toshiaki

URL : <https://researchmap.jp/read0094608>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：日本近現代史、政治、議会、行政、会計監査、政官・政軍関係

研究の概要

公的資金の監査と適正な使用をめぐる問題は、近年においても政治的な重要課題として浮上している。しかしこの問題は、わが国が近代化するなかで発達した、行政・議会制度のなかですで見られる課題であり、根本的な問題点を考察するためには、歴史的な根源を探らなければならない。ただ従来は、残存する史料状況などの課題を克服できず、充分な研究は行われてこなかった。

そこで本研究では、近代以来の公的予算制度のなかでも公開度の低い「機密費」を中心に取り上げて、わずかに残存する希少史料を搜索し、内容を分析して、機密費制度の歴史的経緯を探查する。そのことによって、内閣・諸官庁を中心とする行政の動向、および監査主体としての議会の問題などを考察する。

「機密費」とは、議会が用途を査定できない秘密的資金であり、戦前においては軍・諸官庁を中心に莫大な金額が使われ、議会制度を一部空洞化してきた経緯がある。そこで本研究では、機密費制度の形成と変遷をもたらした政治過程を検討し、制度の意図・背景などを分析するとともに、制度に影響をもたらした世論の動向、および不正や流用の防止などを目的とした各省庁の制度変革、監査体制の構築などの動向を調査する。さらにこれまでの研究過程で、発見された希少な諸文書・史料類は、近代（戦前）の歴史的な文書であることを前提として、原則的には公刊・公開をめざし、広く研究の発展を促すことを企図している。

以上のように、本研究では、従来不明であった機密費制度の形成と変遷にかかわる政治過程と通史的展望を、実証的な史料分析で明らかにすることをめざす。さらに近代・現代の両時代における公的資金監査の異同を考察し、その透明性確保と監査体制のあり方に関する提案・示唆を得ることを目的とする。

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に



明治期における内閣機密費の引継文書（1911年）
「証 金五萬九千円也 内閣機密費 右正に引継候也
(近代機密費史料集成Ⅱ) 第1巻 46・47頁
原文書は「西園寺公望関係文書」立命館史料資料センター所蔵)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- ・現代日本の政治システム、および会計監査制度の根源的課題を探るものであり、行政組織だけでなく、企業・公益団体など会計監査を必要とする組織において、参考となる知見が期待できる。
- ・歴史学の成果を応用することによって、社会・政治に対する意識や批評能力を高めるとともに、より適切で信頼できる社会システムの構築に向けた考察を行う手がかりをもたらす可能性をもつ。

知的財産・論文・学会発表など

- 【論文】 小山俊樹「近代日本の謀略と機密費」(『中央公論』2021年1月号) など
【公刊史料】 小山俊樹(監修・編集・解説)『近代機密費史料集成Ⅱ 内閣機密費編』(ゆまに書房、2021年、全3巻) など

日本中世の皇位継承と政治構造



文学部・史学科 准教授

佐伯 智広 SAEKI, Tomohiro

URL : <https://researchmap.jp/RX-78-03>

人文科学

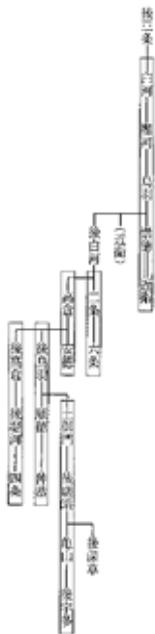
八王子キャンパス

キーワード：日本中世政治史、皇位継承、院政

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

研究の概要

「日本中世前期の皇統」



中世日本における皇位継承の実態・特質について分析し、それに規定された中世日本の政治構造を明らかにすることを目指している。

中世日本で行われた院政とは、「幼少の天皇に代わって、天皇の直系尊属である院（退位した天皇）が政治を行う」という制度であった。直系尊属とは、父・祖父・曾祖父など、自分より前の世代で自身と直接血がつながっている親族のことである。

逆にいえば、院であれば誰でも院政が行えたというわけではない。院政を行うためには、天皇が幼少であること、天皇が直系の子孫（子・孫・曾孫）であることであること、という二つの条件が必要があった。

この条件を満たし、院政を行った院こそ、当時の天皇家における家長であった。院は、家長として、幼少の天皇に代わって政務を代行するだけでなく、天皇の婚姻や皇位継承者までも決定した。

ところが、天皇が成人し、自らの政治的意思を行使するようになると、必然的に、院の政治的意思が妨げられる事態も生じてくる。天皇の成人後も、院が院政を安定して行うためには、成人天皇を退位させ、幼少の天皇を新たに立てることが必要となる。

また、将来の院政の権利が保障されるためには、自身の男子に皇位を継承させる必要がある。こうして男子直系継承が追求された結果、男子直系継承が一般化し、男子直系継承によって形成された天皇の血統は、「皇統」と称されることとなった。

このように、院政期には、天皇の死去による皇位継承に加え、成人天皇の譲位による皇位継承がしばしば行われ、皇位継承問題にともなう政変や戦乱も多発した。こうした政治構造が政治過程に及ぼした具体的な影響を明らかにすることが、今後の課題である。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現代の天皇制における、「現天皇の男子が皇位を継承する」という男子直系継承の仕組みは、12世紀初めに院政という政治制度が成立したことにともなって確立した。その根底にあったのは、この時代に成立した、男系で代々継承される「家」という社会的な枠組みである。この「家」という枠組みもまた、「結婚に際して男性の姓が選択される」といった点で、現代日本に大きな影響を与えている。中世の皇位継承や、院政という政治形態について分析することは、こうした現代社会の問題の淵源を探る営みでもあり、そこから得られた結論は、現代の天皇制や家族制度といった今日的課題について考えるための材料となりえるものである。

知的財産・論文・学会発表など

著書 単著『皇位継承の中世史 血統をめぐる政治と内乱』（吉川弘文館、2019年4月）

著書 単著『中世前期の政治構造と王家』（東京大学出版会、2015年3月）

学術論文 単著「中世前期の王家と女性」（『日本中世の政治と制度』吉川弘文館、2020年11月）

中国近代・東北アジア史における張作霖



文学部・史学科 教授

澁谷 由里

SHIBUTANI, Yuri

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：中国近代史、東北アジア史、張作霖、日中関係、多国間外交、地域政治
分裂国家再統一、和解

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

1928年の爆殺事件で有名な、張作霖（1875-1928年）を主に研究している。一介の馬賊から、国家元首同様の地位（中華民国安国軍大元帥）にまでのぼりつめたその人生には、中国と日本はもちろん、ロシアや朝鮮半島、モンゴルの歴史も深くかかわっている。現在の多国間外交や地域政治のケーススタディとして有益な研究対象である。

昨今は、1910年代末から1920年代前半期にかけての、孫文と張作霖との関係を通じて、敵対者同士が和解へとふみだす動機や条件、そのプロセスについて、双方の周辺人物や利害関係国（日本、ソ連、アメリカ）とのかかわりも含めて追究している。なお2017～2022年度の新領域研究「和解学の創成」メンバーとして、分裂国家がそれを克服するための歴史的ヒントの提案にも努めてきた。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中国近現代史や日中関係史を題材とした小説の、歴史考証を長らく手がけてきた。浅田次郎氏の『中原の虹』・『マンチュリアン・レポート』・『天子蒙塵』（いずれも講談社）小川哲氏の『地図と拳』（集英社）を担当した。ドラマ・映画の脚本チェック、作家育成、マスメディアの記事作成も含め、中国近代ものの歴史考証とアドバイスを可能であると考えている。

知的財産・論文・学会発表など

著書（最新の研究成果）

澁谷由里『馬賊の「満洲」—張作霖と近代中国—』講談社学術文庫、2017年

澁谷由里『〈軍〉の中国史』講談社現代新書、2017年

論文

澁谷由里「孫文と張作霖—民国再統一に向けての提携を中心に—」

『東洋史研究』78巻3号、2019年12月

弥生時代を中心とした先史時代の研究



文学部・史学科 准教授

高木 暢亮 TAKAKI, Nobuaki

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：弥生時代、社会構造、埋葬、生業活動

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

研究の概要

(1) 弥生時代の墓地を対象として、先史時代の社会構造を考察する。

具体的には、①墓の副葬品から階層性を抽出し、弥生時代社会の階層差について明らかにすること、②子どもの埋葬を検討することによって、弥生時代社会において子どもがどのように扱われていたか、さらには弥生時代社会の親族構造について明らかにすること、③墓地の空間構造の検討を通して、弥生時代社会における婚姻形態、階層差、親族構造について明らかにすること、を目的とした研究を行っている。

(2) 弥生時代の生業活動について考察する。

これまでの弥生時代の研究においては、水田での稲作に関心が集中し、農耕以外の生業活動についてはほとんど研究の蓄積がないといってよい状況である。このような状況を踏まえたうえで、これまでの研究で関心が払われてこなかった弥生時代の狩猟・漁撈活動について研究を進めている。具体的には、①弥生時代の漁撈活動、特に水田での漁撈活動について明らかにすること、②弥生時代の狩猟活動、特に狩猟に特化した集落遺跡の検討を通して、弥生時代の狩猟活動や集落間での分業体制について明らかにすること、を目的とした研究を行っている。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

帝京大学ロングライフアカデミーでの公開講座を通して、一般の受講者を対象とした講義を行っている。

知的財産・論文・学会発表など

著書（共著）「第2章 弥生時代から古墳時代へ」『大学で学ぶ日本の歴史』

pp.8-13 吉川弘文館 2016年4月

学会発表 「弥生時代の土器棺墓にみる子どもの埋葬」『日本考古学協会第81回総会研究発表要旨』 pp.96-97 2015年5月 日本考古学協会第81回総会

中国古代における「統一」を再考する



文学部・史学科 講師

楯身 智志

TATEMI, Satoshi

URL : <https://researchmap.jp/tatemi>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：中国史、秦漢史、政治史、支配、権力、国家構造、史料批判

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

中国史上最初に中国本土（China proper）を「統一」した秦・漢両王朝の政治史を研究しています。秦の始皇帝は、戦乱に陥っていた中国本土を初めて統一し、文字・貨幣・度量衡・道幅など、すべての物事を秦の制度に統一しました。さらに万里の長城を修築し、中国本土と遊牧民の居住地帯を視覚的に区別しました。これにより、中国は初めて一つの文化圏として統一されたと言われています。

しかし、秦はその統一をわずか 15 年間しか維持することができませんでした。一般的に、それは始皇帝や二世皇帝の暴政によるものと考えられています。ところが最近の研究では、秦の統一はあくまで表面的なものに過ぎず、中国各地の地域性は維持され続けたと言われています。秦滅亡後に勃発した楚漢戦争は、項羽と劉邦という 2 人のライバルが争った戦乱とされていますが、実際には 2 人が各地に割拠していた地方政権の支持を奪い合った戦いです。ゆえに項羽に打ち勝った劉邦は中国を東西に区分し、東部に割拠する独立勢力の利害を調整することで、かろうじて「統一」をもたらしたのです。これが、以後約 400 年続いた漢王朝の実態であったと考えます。

私は漢王朝の上層部が繰り広げた政治闘争の展開を分析することによって、以上のような「中国統一王朝」の実態を探っています。「前近代中国は皇帝支配の時代だ」と言われますが、それは必ずしも「中国は皇帝によって統一されている状態こそデフォルトだ」ということと同義ではありません。地域性・多様性を許容・黙認する皇帝支配の実態を解明することで、「統一された中国」というイメージを相対化していきたいと考えています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中国本土の多様性を歴史的に解明することによって、これまで知られていなかった中国文化の魅力を発掘すると同時に、いわゆる「少数民族問題」を平和的に解決する糸口を模索したいと考えています。また研究・教育活動を通じ、われわれ日本人が中国という地域や文化に対して抱く偏見を排除し、日中両国が生産的な友好関係を築く一助になればと願っています。

知的財産・論文・学会発表など

- 楯身智志『前漢国家構造の研究』（早稲田大学出版部、2016年）
- 楯身智志「前漢諸侯王墓よりみた王国支配の実態—満城漢墓と中山靖王劉勝—」（『東洋史研究』第76巻第3号、2017年）
- 楯身智志「前漢楚王国の虚像と実像—『史記』楚元王世家と『漢書』楚元王伝の比較を通じて」（工藤元男先生退休記念論集編集委員会『中国古代の法・政・俗』汲古書院、2019年）

モンゴルからのアジア近現代史



文学部・史学科 准教授

田中 剛

TANAKA, Tsuyoshi

人文科学

URL : <https://researchmap.jp/tanakatsuyoshi>

八王子キャンパス

キーワード：モンゴル、中国、台湾、アジア近現代史、多文化

研究の概要

近代中国における周縁地域の変容を、内モンゴル地域に焦点をあてて研究を行っている。また最近では、日中戦争期から中華人民共和国成立前後にかけて内モンゴルから日本や台湾へ渡ったモンゴル人たちの歴史にも研究対象を広げている。彼らは日本の占領政策によって派遣された留学生であったり、日中戦争終結後に始まった国共内戦を避けて台湾へ渡った人々である。彼らはどのようにして海を渡り、そこでどのように暮らし、現地社会との関係をどのようにして築いていったのか。このような課題を明らかにするため、国内外の公文書や歴史的資料を蒐集し、当事者への聞き取りも行って分析を進めている。

●写真（上）

「盛岡に疎開したモンゴル人留学生たち」（1945年夏）
日本各地で学んでいたモンゴル人学生たちは第二次大戦末期、盛岡高等農林学校や岩手師範学校に疎開して日本敗戦を迎える。

●写真（下）

「台湾のチンギス・ハーン大祭」（2016年撮影）
毎年台湾では旧暦3月21日に政府主催でチンギス・ハーンを顕彰するセレモニーが執り行われ、台湾在住のモンゴル人たちが集う。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 日中戦争期のモンゴル人留学生のなかには、戦後も日本に残った人たちが少なくなかった。なかには華僑活動に参加した人たちもいた。彼らの歴史を理解することは、多文化共生社会の実現をめざす日本にとって考える手がかりとなり得る。
- 台湾は多文化主義に対する関心が高いことで知られている。これを法的に支えているのは1946年制定の「中華民国憲法」であり、「辺疆地区の各民族」（モンゴル人、チベット人、ウイグル人など）に対する保障や扶助を謳った条文が基礎となっている。台湾社会とモンゴル人との関係を検討することによって、台湾多文化主義の来歴を理解することができる。

知的財産・論文・学会発表など

- 田中剛「日本敗戦前後の中国人留日学生政策—汪精衛政権・満洲国・「蒙疆政権」」（森時彦編『長江流域社会の歴史景観』京都大学人文科学研究所、2013年）
- 田中剛「蒙疆政権」留学生の戦後—東北・北海道を中心に」（大里浩秋、孫安石編著『近現代中国人日本留学生の諸相—「管理」と「交流」を中心に』御茶の水書房、2015年）

儒家經典解釈の変容と社会



文学部・史学科 助教

陳 佑真

CHIN, Yuma

URL : <https://researchmap.jp/chenyuzhen>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：中国思想史、蘇軾、儒学、宋代、文人文化

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

中国の人々が儒家の經典をどのように解釈してきたのか、という問題について、北宋時代の蘇軾(1037～1101)を中心に、前後する時代を含む諸注釈書の比較検討によって分析しています。

經典解釈の歴史では、北宋という時代は、初唐の孔穎達らにより完成した五經正義、南宋の朱熹により大成された道学という二大権威の中間の時代に当たります。北宋の經典解釈は、従来の注釈書が多く語句の解説に留まっていたことに不満を表明し、自らが經典に基づいて主体的に生きるという前提に立って実践に根ざした解釈を試みた点、また、自らの主張を示す過程で従来の定説に果敢に挑戦した点に大きな特徴があります。

彼らの新しい古典読解の背景には、唐代貴族政の崩壊があります。家柄と無関係に科挙によって選抜された者(士大夫)が朝廷で政治に携わる宋の体制では、個々人が社会に責任を負う者として儒家の經典をどのように受け止めて政治に活かすのか、ということが重視されます。彼らは当時の社会の問題と經典に描かれた古代とを重ね合わせながら古典の文言を解釈していたのです。

漢文には絶対に正しい読みというものはありません。だからこそそれを読む一人ひとりの問題意識が解釈に投影されます。儒家の經典という、当時の社会の中で無制限の価値を認められたものをどう解釈したのか、それを読み解くことは、現代につながる先人の思惟を正しく理解するためのきわめて有効な方法であると考えております。



写真：『両蘇経解』（同朋舎、1980年）
蘇軾とその弟・蘇轍による經典注釈書を
16世紀末に整理し出版したものです。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

四書五経や道学(朱子学)といった私の研究対象は、中国のみならず日本や朝鮮半島においても強力な規範として社会のあり方を規定してきました。こうした要素は、現代社会の中でも人々の思考様式に伏流として大きな影響を与えています。

二十一世紀の社会のあり方を考える際、過去の儒学に目を向けることは一見遠回りかもしれませんが、東洋の古典籍、また、それをテーマにした先人の議論からは、東アジア人の思考の本質に根ざした、産業分野を問わず有効なソリューションが得られるものと認識しております。

知的財産・論文・学会発表など

- ・「蘇軾『孟子解』に見るその歴史思想」(『東洋史研究』第81巻第3号、2022年)
- ・「松崎鶴雄の『詩経』学」(京都大学人文科学研究所共同研究班「日本の伝統文化」を問い直す」学術発表、2022年)
- ・『朱子語類訳注 卷十八 大学五』(共著、汲古書院、2022年)
- ・「蘇軾の『周易』解釈に於ける爻位及び交関係の重視」(東英寿編著『唐宋八大家の探究』、花書院、2021年)
- ・『京都大学蔵苗図五種』(共著、商務印書館、2021年)

歴史としてのヨーロッパ統合



文学部・史学科 講師

能勢 和宏

NOSE, Kazuhiro

URL : <https://researchmap.jp/kazuhrrio-nose>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：EU、ヨーロッパ統合、万博

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

EU（欧州連合）のもとでヨーロッパは、国家の枠組みを超えた協力・統合を、様々な分野で実現している。たとえばヨーロッパでは、多くの国が国境検査を廃止したことで、自由に国内外を移動でき、共通通貨ユーロも導入されて久しい。ただし、こうしたヨーロッパの統合は、EUによって突如として生まれたアイデアではなく、少なくとも18世紀にはすでにヨーロッパ統合というアイデアは存在していた。なぜヨーロッパの統合は第二次世界大戦後にはじまり、どのようにして現在のヨーロッパの姿かたちができあがっていったのか。これらの問いを探究することで、現在のEUのあり方を相対的に理解し、ヨーロッパ統合が秘める可能性を探ることが研究の大枠である。

下の写真は、1970年の大阪万博において、当時のEC（欧州共同体）がパビリオンに設置したモニュメントである（万博後、神戸市に寄贈）。あまり知られていないが、EUは多くの万博に参加し、「EUとは何か」を一般市民へと発信してきた。近年はこうした文化活動に着目して、EUが志す統合のあり方について分析を深めている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

EUは国家でもなくたんなる国際機関でもないといわれる。そうしたEUとのやりとりは、EUの特徴を知らないままでは、思わぬ落とし穴にはまるリスクを秘めているだろう。日本・EU経済連携協定（EPA）が2018年に締結されたように、わが国とEUの関係は近年発展を遂げている。こうした状況で、日本政府・企業にとって、EUに関する正確な知識は得ることは必須といえるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

- ・能勢和宏『初期欧州統合 1945—1963：「6か国のヨーロッパ」と国際貿易秩序』京都大学学術出版会、2021
- ・能勢和宏「欧州統合」金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020
- ・能勢和宏「欧州共同体の万国博覧会への参加：ブリュッセル万博（1958）、モントリオール万博（1967）、大阪万博（1970）」『帝京史学』第37号

近世イタリアにおける教皇の統治



文学部・史学科 講師

原田 亜希子 HARADA, Akiko

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.7cec30329d5b1bd6.html>

八王子キャンパス

キーワード：近世イタリア史、近世国家、教皇、都市ローマ、教会国家

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

現在ローマ市内のヴァチカンに居住している教皇はカトリック教会全体の指導者であり、その発言がカトリック世界のみならず国際社会においても注目される存在であることは多くの人に自明のこととして受け入れられているだろう。しかし今でこそ教皇の権限はヴァチカン内に限られているが、歴史を紐解けば中近世の教皇は単にカトリック世界の精神的トップであっただけでなく、イタリア中部の広大な領域を統治する君主でもあったことを知る人はあまりいないのではないだろうか。本研究ではこの教皇が統治していた国家である「教会国家」の実態を明らかにすることを目指している。

中でも特に近世の教会国家における首都ローマの統治状況を、都市の伝統的自治組織である都市政府と教皇庁との関係から研究している。聖俗両側面を持つという特殊な君主を掲げる教会国家の統治状況を明らかにすることは、その特殊性を明らかにすると同時に、中央と周辺組織との関係を国家的枠組みで考察し、近世の国家の一般的特質を明らかにする上でも新たな知見を提供するものであると考えている。



ローマ市立カピトリノ図書館

ここに保存されている未刊行一次史料やヴァチカン図書館・文書館に残る史料をもとに研究を進めている。



カンピドリーオ広場

ローマ都市政府の拠点であるこの広場の設計にも、教皇と都市との複雑な権力関係が現れている。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

キリスト教文化になじみの薄い日本では、中近世の教会国家や教皇庁に関する研究はこれまでほとんどなされてこなかったが、現在のヨーロッパを理解する上でもこの時代の教皇の聖俗両権限の在り方を知ることは重要であると言える。また普遍的権威であった教皇によって創設されたヴァチカン図書館・文書館には民族や国家に限定されない人類全般の知が集積されており、これらの史料を基に近世の教皇庁における我が国日本との交流に関しても今後さらに研究を広げていきたいと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

著書（共著） 「第5章 中近世のローマの商人－「メルカトル」から「ボヴァッティエレ」へ」

神崎忠昭・長谷部史彦編『地中海圏都市の活力と変貌』慶應義塾大学出版会、2021年

国内シンポジウム発表 「天正・慶長使節の記憶－バチカン史料からの再考－」

バチカンに眠る日本の記憶－文化と交流 450年・教皇の知り得た日本－公開シンポジウム

2021年11月（上智大学）

学会発表 『近世教会国家体制下におけるローマ都市政府の Terre del Popolo 統治』

第66回日本西洋学会大会、2016年5月（慶應義塾大学）

古日記天候記録から探る江戸時代の台風



文学部・史学科 准教授

平野 淳平 HIRANO, Junpei

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.41db0909567b3b0c.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：気候復元、古日記天候記録、台風、江戸時代

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

研究の概要

地球温暖化が進む中、将来の気候変化について関心が強まっている。しかし、的確な気候予測のためには、過去数百年の気候変動に関する実証的研究が重要である。日本では、公式気象観測データが得られる期間が19世紀後半以降に限られている。一方、18-19世紀の江戸時代には、毎日の天候を記録した古日記が日本各地に残られている(図1)。古日記に記録された天候や風などの記録をもとに、19世紀後半以前の気候を復元する研究を行っている。

古日記には、風向も記録されているので、風向の時間変化をもとに、災害を引き起こした台風のコースを復元できる。図2は、各地の古日記に記録された風向変化をもとに、1856(安政3年)に江戸湾で高潮を発生させた「安政江戸台風」のコースを推定した結果である。このように、古日記天候記録を活用することによって、過去の気候災害の発生要因を詳細に解明することが可能である。



図1 古日記天候記録の例
『弘前藩庁日記』弘前市立図書館所蔵

曇 昨夜雪降
今朝三寸程積

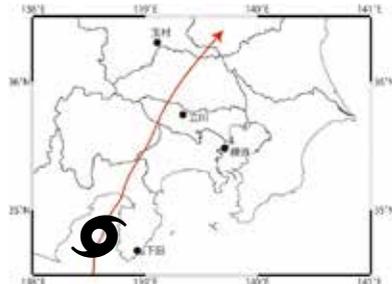


図2 各地の古日記天候記録から推定した「安政江戸台風」のコース

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究は基礎研究であり、直ちに実学や産業界に役立つ成果が得られることはない。しかし、高潮や風水害の原因となった過去の台風を復元することによって、現代の防災にも役立つ知見を得ることは大いに期待できる。例えば、2018年に台風12号が「観測史上初めて日本付近を西向きに進んだ」と言われた。しかし、「史上初」と言っても、それは、台風経路データが整備された20世紀後半以降についてのことである。近代気象観測開始以前に、西進した台風が存在したか否かを明らかにすることは、現在の気候の位置づけを理解するために重要である。

知的財産・論文・学会発表など

- 平野淳平, 三上岳彦, 財城真寿美 (2018): 広島古日記天候記録による1779年以降の夏季気温の復元 地理学評論 91(4)311-327.
- Junpei Hirano, Takehiko Mikami, Masumi Zaiki, Junji Nishina (2018): Analysis of Precipitation Data at Yokohama, from 1863 to 1869 Observed by J.C. Hepburn. Journal of Geography 127(4) 531-541.

中近世移行期の地域と村落のあり方・ その権力支配との関係性



文学部・史学科 教授

深谷 幸治

FUKAYA, Koji

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：中近世移行期、地域史、村落社会史、民衆史

研究の概要

中近世移行期とは、日本史上の大きな変革期として認識される。それは戦国大名間の闘争の中から、戦国時代後期に起こった国内統一の動きを経て、織田・豊臣という二つの特異な性格を持った統一政権が登場し、その後に徳川幕府によっていわゆる「幕藩体制」が形成され、政治・社会が安定化するまでの劇的な時代である。そうした大きな動き、政治・軍事・社会変化の渦の中であって、権力者である大名やそれに連なる人々の政治や戦いの歴史だけではなく、もっと我々一般庶民に近接した存在である、当時の民衆の動向を注視すべきと考えている。

そこでそうした民衆の集団組織である村落、またそれらを含む郡・郷・町場などの地域、その中であって比較的地域に密接した存在としての地域寺社、それらの動向を史料から可能な限り明らかにし、復元していくことによって、当時の歴史に対する新しい視点を得ようとする試みを行っている。



現地調査で訪問した滋賀県愛荘町の金剛輪寺本堂

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

歴史学、特に明治以前の近代史研究というのは、その性格上直接現代を生きる我々の生活向上等につながる実学への近接性は多くはないかもしれない。しかし歴史的に見れば、実学とは必ずしもすぐ使える実利的・実用的学問やその研究に尽くすことだけではないということがわかる。過去の歴史の事実を復元し、その真相を解明することは、「歴史を鑑とする」という言葉もある通り、当然ながら過去の歴史は現代を生きる我々の社会の前提となっているものであるから、同時に過去における先祖たちの成功・失敗を実例として照覧し、現代社会を改革することに役立つ。江戸時代後期の「実学者」横井小楠は、実学を「実践的な徳徳の学」「経験や実証を重視する学」「客観的に真理を追究する学」と規定している。この見解に歴史学も一致するものと思う。長期的な視野で歴史学をとらえていく必要があると考える。

知的財産・論文・学会発表など

【著書（単著）】

- 『戦国織豊期の在地支配と村落』 校倉書房、2003年
- 『織田信長と戦国の村 天下統一のための近江支配』 吉川弘文館、2017年
- 『中近世の地域と村落・寺社』 吉川弘文館、2020年

【共編著】

- 木村茂光・小山俊樹・戸部良一・深谷幸治『大学でまなぶ日本の歴史』 吉川弘文館、2016年

【学会発表】

- 比較法史学会第15回大会報告「地域寺院をめぐる在地の秩序と法慣習」 於京大会館、2006年

粘土板史料に基づく実証的古代史研究



文学部・史学科 講師

藤本 啓助

FUJIMOTO, Keisuke

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：メソポタミア、西アジア史、古代文明、楔形文字

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

研究の概要

- ・主に前2千年紀メソポタミアの楔形文字文書、特にハンムラビの時代に繁栄し、滅ぼされた古代都市・マリの文書を研究しています。マリ文書は王と王宮の高官、地方長官、將軍などとの間に交わされた書簡、多様な行政経済文書から成り、前18世紀メソポタミアの外交関係、交易、農業・手工業、さらには「王の食事」やト占・預言といった特殊なテーマに関して、他の史料群にはあまり見られない、極めて具体的な情報を提供しています。（下図は、素朴な内容ながらも最古の部類の感染症対策指示書。）他にも、王妃、王女といった高位の女性たちを発信者とする書簡も一定数存在しており、王宮における王妃の権能、政略結婚、女性聖職者の実態を知る上での貴重な資料となっています。これら史料に基づき、手工業とその労働・生産管理、王宮高官の権能の解明に関心を持って研究しています。
- ・マリ文書と同時代の「ハンムラビ法典」は、家族法がその条文の多くを占めていることは、意外と知られていません。関連する法律文書と合わせ、私的経済の発展に伴う、「家」とその維持に関する当時の人々の強いこだわりを理解する資料となります。当時の「家」の解明、そして「自由人と奴隷から成る身分制」といった旧来の概念の再検討をテーマに探求しています。
- ・後の世界宗教に連なる古代中東の宗教の発展を追う中で、人々が普遍意識にどのように目覚めていくのか、そのプロセスに強い関心があります。史料は希少ですが、興味深い分野です。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

4千年以上前に灌漑農法を極めたシュメールのある都市は、76倍という驚異的な麦の収穫量を達成しましたが、過度の灌漑が土壌の塩化を招き、僅か300年で収穫量は激減しました。最古の文明から生じた最古の環境破壊の一例と言えます。倫理なきテクノロジーの追及がいかに愚かであるか、「虚学」から学んだ人が、真に実学を生かし切ることを、どの時代の歴史も教えています。

知的財産・論文・学会発表など

共著：日本オリエント学会（編）『古代オリエント事典』岩波書店、2004年

日本古代における交易拠点の開発



文学部・史学科 准教授

宮川 麻紀 MIYAKAWA, Maki

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9705578f0182e052.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：地域史、交易拠点、市、ミヤケ

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

七世紀後半から八世紀にかけて、日本は律令制を唐から導入し、律令国家の構築を目指す。そうしたなか、新たな財政システムを構築する過程で、律令国家は既存の流通経済を取り入れつつ、それらを変容させながら全国的な運送・交易の仕組みを作り上げていく。

そのような運送・交易の実態を明らかにするため、本研究では市や津の様相や、「商人」の実像に迫ってきた。現在では、律令国家の市や津のうち、ヤマト王権の時代から存在していたと考えられるものに焦点を絞り、どのようにして開発され、機能してきたかを検討している。具体的には、八世紀以降に法隆寺や東大寺、大安寺といった大寺院に施入された土地や倉のなかには、王家のミヤケ（『日本書紀』では「屯倉」と表記）に遡るものも多いことから、それらがどのような場所に置かれ、どのような経緯で開発されたのか考察している。ミヤケには運送・交易拠点として機能したのもも多く、その近くに市や津が存在し、大規模な交易が展開していた可能性が高い。

したがって、寺領荘園およびそこから遡れるミヤケと、市や津との関係性を探り、ヤマト王権による交易拠点の開発と律令国家によるそれらの拠点の取り込み、整備の詳細を明らかにしていくのが本研究の目的である。

写真：播磨国（兵庫県）に所在した法隆寺領鷗荘（いかるがのしょう）の勝示石とされる石。この荘園は厩戸皇子の所領に由来するが、他にも播磨国はヤマト王権が開発した土地が多く、山陽道の他にも山陰地方との交通路や、瀬戸内海交通の要衝も多い。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究は、地域社会に残る地名や地形の検討を通して、失われつつある歴史的景観を記録し、その意義を再検討するものでもある。現代社会に必要な地域社会の活性化や、他地域との連携にもつながるといえる。この研究をもとに、地域社会の歴史的な魅力を再発見し、観光や地域からの発信などにもつなげていくことが可能であると考えられる。

知的財産・論文・学会発表など

宮川麻紀 『日本古代の交易と社会』吉川弘文館、2020年

東方正教受容の士族層と地域の「近代化」についての研究



文学部・史学科 准教授

山下 須美礼 YAMASHITA, Sumire

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：士族、近代化、東方正教、東北、ロシア、地方知行

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

明治初期の東北地方における東方正教（ハリストス正教会）の地域的展開と、その担い手としての士族層に着目した研究を進めている。正教を受容した士族層の多くは、藩政期には地方知行制のもと村落社会に拠点をもち、支配層・指導層として存在してきた。①藩政期の地方知行制、②戊辰戦争の敗北、③東方正教の広範な受容、④東方正教を介したロシアとの文化接触、といった特質を共有する地域、主に奥羽山脈以東の東北地方において、東方正教はどのような可能性を開き、士族層はどのような「近代」を志向し、そして地域社会はどう変容したのか、引き続き明らかにしていく。



●写真（上）

「北鹿ハリストス正教会曲田生神女福音会堂」（2017年8月撮影）
秋田県大館市にある、明治25（1892）年に建てられた東方正教の会堂。
イコン画家山下りんのイコンが納められている。

●写真（下）

「家翁録」（個人蔵）
・仙台の士族で東方正教の最初期からの信徒であったイオアン涌谷繁による明治11（1878）年～12（1879）年の日記。
・仙台における教会活動の実態とともに、士族の結社や演説会、病院設立などの動向が詳細に記されている。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

実学や産業界への直接的なつながりは少ないが、研究対象地域に複数回にわたり足を運び、地域に残る資料の掘り起こしや解説を行なっていくという研究手法は、結果的にその地域の特質や産業展開の歴史的背景を明らかにし、またその地域社会で生きてきた人々の暮らしの総体にスポットを当てることになる。このような調査・研究を通じて、住民の方々に資料の内容やその価値を分かりやすい形で提示できるとともに、歴史との結びつきのなかから、地域社会のアイデンティティの創出や新たな価値の発見を喚起することができる。

知的財産・論文・学会発表など

著書

『東方正教の地域的展開と移行期の間人間像 北東北における時代変容意識』清文堂出版 2014年
国際学会発表

“The local kyūjinretainer class in Morioka and Christianity : seen through the loss and recovery of samurai status”, David HOWELL, KanakoKITAHARA, HirotakaSUZUKI, Sumire YAMASHITA, “Reconsidering Japanese modernisation from the Hokuōregion—Christ and the samurai: dimensions of their interaction”, Japanese Studies Association of Australia Conference 2017

江戸幕府の職制・幕藩関係の研究



文学部・史学科 准教授

山本 英貴

YAMAMOTO,Hideki

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：政治史、法制史、史料学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

国立公文書館所蔵「井上日記」

- ① 江戸幕府は、数百を超える役職で構成される巨大な組織です。その組織のうち、大名や諸役人の政務を監察した大目付という役職を務めた人の日記（「井上日記」）を分析し、幕府組織の全容解明を目指しています。
- ② 幕府が出した人事に関する法令と武士の日記などを組み合わせて分析し、江戸時代における役人の昇進ルートや、武士が幕府の役職に就職するための活動などを復元しています。
- ③ 各地を支配する大名たちが、自身の希望を実現するため幕府に願い出をする際に、どのような人々を頼ったのか、またどのような根回しをしていたのか、交渉の実態について検討しています。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本史上、江戸幕府は最も長く続いた武家政権です。政権を長きにわたって維持できた理由として、幕府を構成する一つ一つの組織に適切な人材を配置していたことがあげられます。さらに、組織の長は数年で変わる一方、長を支える構成員は、組織で採用・出世してきた人を中心に、他の組織から人材交流の一環として派遣された人たちです。この組織の形態は、現在の省庁における大臣と大臣を支える官僚たちとの関係に似ています。

私の研究は、組織を運営していくうえで重要となる「人」について、どのような点を評価して起用していくのか、また「人」を活かすためのポストをどのように統廃合していくのか、それらを考える材料を提供することができます。

知的財産・論文・学会発表など

単著：『江戸幕府大目付の研究』（360頁、吉川弘文館、2011年）。

単著：『旗本御家人の就職事情』（224頁、吉川弘文館、2015年）。

論文：「江戸幕府の政務処理と幕藩関係—家斉期の行列道具を素材として—」（『史学雑誌』第126編第6号、2017年）。

論文：「岡山藩の自分仕置と対幕藩交渉—江本竹蔵一件を素材として—」（『日本史研究』第667号、2018年）。

論文：「家斉期の幕藩関係—毛利家の家格上昇運動を素材として—」（『歴史学研究』第989号、2019年）。

論文：「江戸幕府の大名行列政策と幕藩関係—近世中後期を事例として—」（『法制史研究』第71号、2022年）。

中国道教と医学の鍼灸思想・養生学思想



外国語学部・外国語学科 教授

閻 淑珍

YAN, Shuzhen

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.4bd01b0fd354af04.html>

八王子キャンパス

キーワード：鍼灸思想、養生学、健康、生活こそ医学

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要



研究イメージ

六朝から唐代の主要道教文献と中国医学のバイブルである『黄帝内経』系統及び鍼灸文献系統を合わせて研究し、道教と医学の流れと思想を歴史のかつ体系的に把握する。同時に、道教と医学の養生学に重点を置いて研究を行っている。現時点では、“以身証道”の考えのもと、授業と研究の傍ら、養生学の術が社会の役に立つように、実生活で一般の人でも実践しやすい部分を取り出して、講演や勉強会の主催などを通じて古来の養生思想、養生術を伝えることにも力を入れている。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中国道教と医学の養生学思想は中国文化の精華一つである。高齢社会が抱えている様々な健康問題、現代人の70%が該当する「亜健康」問題は、人間の生活の質を下げてしまう。養生学思想は最も日常生活に近い実用的な自然哲学であり、衣・食・住・行即ち生活習慣の最高の教科書として、現代社会の健康問題を解決するのに必要不可欠である。養生学思想を広めて、“日々の生活こそ医学である”“自分の手で自分の健康を作る”といった考え方と、数千年の歴史を持つ長生不老術を一緒に広めたいと考えている。(亜健康：病気ではないがいつも元気がなかったり、体の具合が悪い。)

知的財産・論文・学会発表など

著書：

『東洋医学思想研究 ―鍼灸思想の伝承と現代人の養生―』2015年12月 文眞堂

『生活の医学―東洋医学養生学を日々の生活に生かす』2020年5月 文眞堂

論文多数

演劇を通して英語力を高める



外国語学部・外国語学科 教授

今関 雅夫 IMASEKI, Masao

URL : URL : <https://researchmap.jp/read0039921>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：演劇的手法、ドラマメソッド、英語教育

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

質の高い英語教育を目指すには、ただ単にリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの能力を伸ばすだけでは実現できない。これ等の能力を伸ばす上でも、また思考能力を発達させるためにも、適切な教育のもとに行われるプレゼンテーション指導、演劇教育などを積極的に取り込む必要がある。特に、英米の大学で盛んな演劇教育、ミュージカル教育は、英語力を上達させるためにも、知的好奇心を呼び起こすためにも、また SDGs の他の目標達成のためにも、今後の英語教育界で重要視されるべきテーマであり、積極的に取り入れるべきテーマであると考えられる。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

集団生活の場である社会において、自力で生きていくためには、コミュニケーション力が必要不可欠である。演劇教育を通し、コミュニケーションと表現の能力が伸び、また英語教育の中で積極的にそれを取り入れることにより、英語力も格段に伸びると思われる。情報を伝えるだけでなく、そのニュアンスを効果的に伝えるためにはどうしたらよいか、気持ちを込めるには何に注意すべきか、また効果的な身振りなどについても考える必要があり、実学へのつながりが期待される。

知的財産・論文・学会発表など

今関雅夫『英語の音声』金星堂、2011

フリードリヒ・ヘルダーリンの宗教・神話論



外国語学部・外国語学科 ドイツ語コース 教授

大田 浩司 OTA, Koji

URL : <https://researchmap.jp/koji-ota>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：18世紀、ドイツ、神話、宗教、想像力

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要



1800年前後のドイツでは、フリードリヒ・ヘルダーリン (Friedrich Hölderlin, 1770-1843) や初期ロマン派の文学者たちによって「神話の再発見」が行われた。彼らは機能的に分化した近代社会 (ルーマン) がもたらす人間存在の断片化と脱聖化を克服するためには、「新しい神話」のプログラムが必要であると主張した。「新しい神話」は、個人の自由の尊重と断片化した社会の統合という対立する両極を弁証法的に統合する機能を持つとされる。またそのような神話は、詩と哲学、感性と理性といった両極を「想像力」(Einbildungskraft) によって総合するといわれる。

ヘルダーリンは論考「宗教について」の中で、神とは非人格的な存在であり、人間と世界との超越論的な関係性にほかならないと規定している。この関係性は一面的な合理主義では把握できない繊細で無限な性質を持つ、

悟性と感性を総合する詩的イメージによってのみ表象され得るとされる。

ヘルダーリンは、共同体の各人が自己と世界との関係を、想像力の働きを通じて自分自身の神の像として自由に表象することを提唱する。ヘルダーリンによれば、それらの互いに異なる神のイメージは調和的に対立しつつ、一つの共同的な神のイメージへ総合されるという。本研究は、ヘルダーリンの宗教・神話論において、表象不可能なものと表象、個人と共同体という二項対立を克服するために、想像力がどのような機能を果たしているかを解明することを目指す。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

90年代以来のグローバル化により、現代世界においては人材、情報、文化、価値観が国境を越えて移動するようになった。日本政府は最近外国人労働者の受け入れ拡大へと政策方針を大きく転換したが、これからの日本人は文化や宗教の背景が異なる多くの外国人を日本社会へ受け入れ、豊かな共感性・コミュニケーション力を通じて外国人と共生していかなければならないだろう。個人の多様性と共同体の融合という両極の弁証法的な総合を主張するヘルダーリンの宗教・神話論は、多文化共生の社会モデルを構想する上で、大きなヒントを提供するだろう。

知的財産・論文・学会発表など

著書 (単著) : Der freie Gebrauch des Eigenen. Zur Konzeption von Bildung und ästhetischer Erziehung bei Friedrich Hölderlin. Würzburg (Königshausen & Neumann) 2021.

学会発表 : 「ヘルダーリンにおける神の詩的表象の変遷」(シンポジウム『『聖なるもの』－1800年前後のドイツ語圏の芸術思想における神性の諸相) 日本独文学会秋季研究発表会 2022年10月9日

日本文学、英文学、比較文学



外国語学部・外国語学科 教授
大野 雅子 ONO, Masako

URL : https://note.com/cute_daphne910/

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：16世紀～18世紀イギリスの詩、源氏物語、比較文学、日本文学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

- ① 16世紀のイギリスでエドモンド・スペンサーによって書かれた叙事詩『妖精の女王』と、11世紀の日本で紫式部によって書かれた『源氏物語』の比較。長い物語の結末はいかに。
- ② 18世紀英国における紅茶と陶磁器と女性の関係。女性はなぜ物欲が激しいと思われたのか。
- ③ 17世紀のイギリスでジョン・ミルトンによって書かれた『失樂園』。イヴのセクシュアリティとは。
- ④ 村上春樹の小説の主人公たちはなぜ愛を成就できないのか。
- ⑤ 三島由紀夫の『豊饒の海』の結末で、聡子はなぜすべてを否定したのか。
- ⑥ 東野圭吾の『白夜行』と『幻夜』のつながりはどこにあるか。



ゼミでは、学生たちは映画や小説を選んで、グループで発表します。トピックは、愛と友情など。学生によると、男にとって男女の友情は成り立ちがたいそうです。また、男は別れた元カノにいつまでも未練をもつそうです。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

学生が社会に出たとき文学が何の役に立つのか、という問いは常に私の心にあり、文学を教えることの罪深さのようなものを感じ続けた教員生活でした。でも、文学によって形成されるイマジネーションの世界なくして人はどうやって人生を生きるのでしょうか。思考力、共感力、想像力は、文学によって形成されるのですから、学生には、もっと文学に触れてほしいです。

知的財産・論文・学会発表など

- ・『母なる海—『豊饒の海』にみる三島由紀夫の母恋い』（PHP エディターズ・グループ、2022年）
- ・『母恋い—メディアと、村上春樹・東野圭吾にみる“母性”』（PHP エディターズ・グループ、2021年）
- ・Spenser in History, History in Spenser (Osaka Kyoiku Toshō, 2018) (共著)
- ・『ノスタルジアとしての文学、イデオロギーとしての文化—『妖精の女王』と『源氏物語』、「ロマンス」と「物語』』（英宝社、2006年）

間からの声—「翻訳」作品研究



外国語学部・外国語学科 講師
齋藤 由美子 SAITO, Yumiko

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.748cc1ce80a02093.html>

八王子キャンパス

キーワード：現代ドイツ文学、越境文学、翻訳論

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

本研究の目的は、翻訳分析を通して通常は認識することが困難な言語や文化の性質を可視化することにある。



多和田 葉子
 日本経済新聞
 (2020.11.2)

近年、ますます多くの作家が母語以外の言語で執筆したり、自身の作品を翻訳したりする傾向にあり、例外的な事象であるにすぎないとされていた自作翻訳の研究も飛躍的に発展している。こうした背景において国内外で特に注目されているのが、日独のバイリンガル作家、多和田葉子である。自作をドイツ語や日本語へ「翻訳」するだけではなく、作品全体において創作と翻訳が絡み合っている稀有な作家である。本研究では、ドイツの批評家ヴァルター・ベンヤミンの翻訳論・言語哲学と関連づけながら、多和田の作品を翻訳の詩学の観点から分析している。

また、研究領域を拓げるために新たに分析対象として加えたのが、20世紀を代表する詩人パウル・ツェランの「翻訳」作品である。ツェランはドイツ系ユダヤ人で戦後はパリに住みながら、最愛の母から受け継いだ「母語」であると同時に、その母を殺した「殺人者の言語」であるドイツ語で詩を書き続けた。生涯にわたってかなりの時間と労力を詩の翻訳に捧げ、現代においてほとんど比肩しうるものがない言葉の仕事をしたと評される卓越した多言語翻訳者でもある。英仏露など様々な言語の詩をドイツ語へ翻訳し、創作に劣らぬ作品として自身の翻訳をみなしていた。本研究は、ツェランがフランス語からドイツ語へ訳した詩を分析し、その成果を基に翻訳をめぐる言説について考察している。



Paul Celan in 1963. Photo: Lútfi Ózskó

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

難民や環境破壊など、地球規模で議論されなければならない問題の解決が急がれるなか、国や言語の境界を越えて活躍している作家が注目されている。自身にとって異質なものに会おう経験をもとに、既存の文化や言語をラディカルに問い直している作家たちの作品は、グローバル化とともに世界各地で再燃するナショナリズムを批判的に考察し、他者理解のあり方を探るためにも示唆を与えてくれるだろう。本研究によって、ヨーロッパ文明から翻訳を通して多大な影響を受けた日本社会を、改めて探究するきっかけも得ることができるはずだ。

知的財産・論文・学会発表など

- *Die Sprachbewegung in Übersetzungen am Beispiel von Yoko Tawadas Texten*, Tübingen (Stauffenburg) 2022.
- „Theoretische Betrachtungen zu Yoko Tawadas Übersetzungspraktiken und der Rolle der Übersetzungsforschung“, in: *Neue Beiträge zur Germanistik. Internationale Ausgabe. Nr. 161*, Japanische Gesellschaft für Germanistik, S. 82-101, 2021.
- 「パウル・ツェランの翻訳『若きパルク』分析」日本独文学会秋季研究発表会、オンライン、2021年10月。

意味論、認知言語学、日英語比較



外国語学部・外国語学科 教授
塩谷 英一郎 SHIOYA, Eiichiro

人文科学

八王子キャンパス

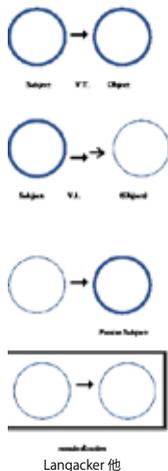
キーワード：意味論、認知言語学、日英語比較、語彙論、語用論、言語哲学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
 SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

意味論・認知言語学・日英語比較とその応用

言語を科学的に理解することへの関心から、意味論・認知言語学を中心に、理論言語学の研究をしてきました。同時に、言語学的知見を言語教育などに応用する可能性を追究してきました。意味論は、研究を始めたころから大きなパラダイム・シフトが起こり、初期には生成文法的な意味論を探索した時期もありましたが、とくに、英語と日本語を中心に、言語の違いへの関心から、抽象的過ぎるミニマリズム文法ではなく、言語構造の違いの基底にある認知構造の言語（語彙・文法・用法など）への反映の仕方を探究してきました。また、実用的な見地から、英語と日本語の認知言語学的な視点に立った比較、両言語の差異の外国語教育への応用、言語の違いを理解した上での合理性とは何か、といったことを追究しています。また、意味論と語用論の関係についても整理しているところです。広い視点で考えると、英語と日本語の違いを理解することによって、英語ハンディの格差を少なくし、多言語共栄共存の一助となればと願います。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

言語の理論的な理解や体系化は、様々な分野に応用が利くものと思います。言語活動の大きな部分は意味理解と構成にあると考えると、意味や認知構造に基づいて言語を理解する認知言語学的パラダイムには大きな可能性があります。応用の見えやすい領域としては、まず、言語教育への応用があります。言語によって、捉え方、表し方の違いをまとめることが、外語に対する柔軟な理解の基礎を作るものと考えます。第二に、今後、翻訳や人工知能などへの応用が一層盛んになっていくものと考えられると思います。

知的財産・論文・学会発表など

- ・「「反対語・反義語」の諸相」、2015、『帝京大学外国語外国文化』 第8号
- ・「言語学とクリティカル・シンキング—誤謬論を中心に」、2012、『帝京大学総合教育センター論集』 第3号
- ・「語学教育における e-learning の位置づけについての緒論」、2011、『情報処理センター年報』 第13巻
- ・「基礎力強化英語教育の中核的要素について」、2010、『帝京大学総合教育センター論集』 創刊号
- ・「意味論・認知言語学と言語教育」、2007、『帝京米英言語文化』 第38号
- ・『講座・認知言語学 第1巻 認知言語学への招待』（共著）、2003、大修館書店
- ・ウンゲラー、シュミット『認知言語学入門』（共訳）、1998、大修館書店
- ・A Guide to IPA Lexicon of Basic Japanese Nouns From a Combinatorial Point of View（共著）、1997、情報処理振興事業協会
- ・“Toward a Natural Theory of Quantifier Interpretation”, 1992, Proceedings of the Tokyo Linguistic Forum 5th Conference

形態論、語彙論、国際英語、英語教育



外国語学部・外国語学科 講師

中村 浩一郎 NAKAMURA, Koichiro

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.118f600519dd5be6.html>

八王子キャンパス

キーワード：派生、日本英語、国際英語、母語話者の英語

研究の概要

英語は西洋古典語（ギリシア語およびラテン語）起源の派生形態論を必ずしも古典語の規範に合わせて行ってはいません。英語のそれは古典語本来の規範に照らせば「誤用」かもしれませんが、英語の立場からすると十分に筋の通ったものです。これは「日本英語」に何を示唆するのでしょうか。従前の我が国の英語教育では例えば次の左側のような名詞句ないし複合名詞は醜い「和製英語」とされ、嘲笑と指弾の対象でした（右側は規範とされてきた形）：

classic guitar / classical guitar
ice coffee / iced coffee
love comedy / romantic comedy

左側の形はそれほどの「誤用」でしょうか。classical guitar について言えば、classical という語自体が古典ラテン語に照らせば「おかしい」のです。英語文化の政治的・経済的な力により、現代ではそれが問題とされないだけのことなのです。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

次のような研究は「実学」へつながるかもしれません：

私は「日本英語 / 国際英語」というものを真剣に考える立場ですが、「本質的で後々まで役に立つから」という配慮により母語話者の英語しか認めない場合を除き発音のみならず、語彙にも文法にも意外に多いように思われます：

1 「ベビーカー」は *baby car ではない

英語の car は車ではない。自力で動くように見える箱である。このことを教わる / 教えるのは次のような例の理解のためにも重要である：

cable car
elevator car

2 「リフォーム(する)」は reform ではない

英語の reform の対象は家一軒などではなく、途方もなく大きな社会システムなのである。この含意は複合名詞や派生名詞でも一貫している：

welfare reform
the Reformation

知的財産・論文・学会発表など

論文：(2015)「英語における古典語の派生形態論の土着化」『帝京大学外国語外国文化』第8号。

学会発表：(2008)「中核校における PowerPoint を使った自前の基礎英文法教材作成」

平成20年度教育改革IT戦略大会。

近代朝鮮における学歴主義

外国語学部・外国語学科 教授

原 智弘

HARA, Tomohiro

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.25e11ca40dc601d3.html>

八王子キャンパス

キーワード：近代朝鮮、学歴主義、官吏任用制度、生活史

研究の概要

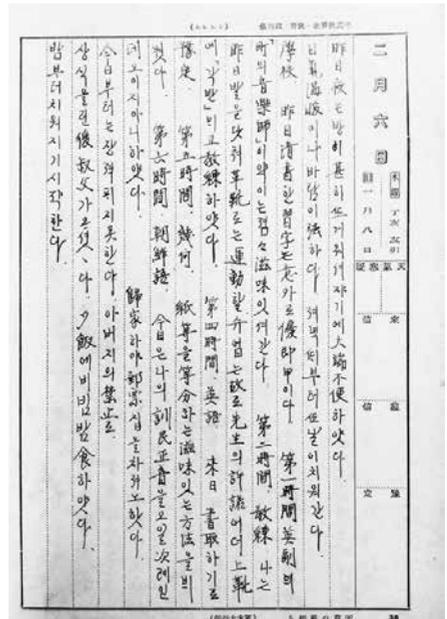
現代韓国を理解するために、かならず挙げられるキーワードのひとつが「学歴主義」である。この学歴主義が韓国の地でいかに誕生し、根付いていったのかを、歴史学的アプローチによって解明していくことを目指して研究を進めている。

そのために大きく二つの側面から接近をしている。

一つは、19世紀末に近代的な制度が朝鮮半島に導入されていく中で、学校制度と官吏任用制度がどのように結び付けられたのかを解明する制度史的側面である。学校卒業という資格が、就職に結びつくことによって、学歴主義が誕生する契機になったと考えられるためである。

もう一つは、成立した制度の中で、朝鮮人学生がいかに学び、いかに生活をしていったのかという生活史的側面である。制度が完成しても、その制度に積極的に参加する人々がいなければ、学歴主義は浸透しない。学歴主義への参与度合い、あるいは浸透具合を確認するためには、児童生徒はもちろん、教員を含めた学校を取り巻く人々の生活を知ることが必要となる。そのためには、官公庁が作成した様々な資料やマスコミが発行する新聞や雑誌に加え、日記や回顧録などの個人史資料はとても重要な情報をもたらしてくれる。

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう



写真：1930年代朝鮮人学生の日記の一部

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

・現代韓国社会の理解を歴史学的観点から解明していくことは、相互理解の基盤作りであり、韓国語教育もまた意思疎通を通じた相互理解を促進する基礎である。このような国際交流の強固な土台作りができればと考えている。

知的財産・論文・学会発表など

- ・原智弘「朝鮮における科挙廃止後の官吏任用制度」『帝京大学外国語外国文学論集』25、2019
- ・原智弘「ある朝鮮人生徒の日常一日記資料（1930年）を中心に」
須川英徳編著『韓国・朝鮮史への新たな視座－歴史・社会・言説』勉誠出版、2017
- ・하라 토모히로「소년의 변민, 청년의 고뇌－초기 한국근대교육의 한 측면－」
水原大学校・旭川大学・帝京大学 日韓国際シンポジウム（於：韓国 水原大学校 2018年9月17日）

スペイン・バレンシア市と周辺における 学校の多文化状況とインクルーシブ教育への模索



外国語学部・外国語学科 スペイン語コース 講師
プラナス ナバロ イネス PLANAS NAVARRO, Inés

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：インクルーシブ教育、多文化状況、異文化間関係、二言語主義、統合

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

本研究では、学校の中で多文化状況に直面せざるを得ない現代の教育現場の現状を示すものであり、スペイン国バレンシア市での現地調査により判明したバレンシア市とその周辺の学校が抱える困難と問題点を提示する。特に外国人生徒の受け入れ、就学や教育状況に関して現状を調査し、問題点を抽出

することに目標を置く。各学校においては、生徒集団のニーズに応じるためのさまざまな方策がみられる。教育当局等から提供されるリソースはどの様に用いられるのか、また教師集団、NGO や父母会といった社会的エージェントが果たす役割に注視して研究する。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

グローバル化が急激に進む現在、国境を越えた人種移動と異民族間の交流は国際社会が直面する現実である。日本においても例外ではない。自国民への公共サービスを維持、保障するためにも、外国人労働者の受け入れは喫緊の課題となっている。そして外国人労働者の子女たちには、整備された環境下で学校教育を受けさせなければならない。外国人子女を日本社会に順応させるため、まず日本語教育を施す環境を整える必要がある。また、多文化教室においては文化、習慣の相違からくる様々な軋轢が発生し、日本もこれら諸問題に対処することが要求される。

スペイン国バレンシアは移民の多い地方である。外国人児童生徒を多く抱えるバレンシアの複数の公共学校を現地調査し、その実態を把握するとともに、これら公共学校が外国人児童生徒順応のためどのような方策を採っているかを明らかにする。バレンシアでの現況を参考にし、日本における外国人児童生徒教育の場での不登校、社会への不順応、文化的衝突さらには人種差別等の発生を防止し、これら諸問題解決の端緒を探求することを目的とする。

「幸せに生きる」ことを求めて—文化的アイデンティティ、儀式、身体表現の実践



外国語学部・外国語学科 准教授

ボオ・小林 シルヴィ BEAUD, Sylvie

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.20028b94801b6661.html>

八王子キャンパス

キーワード：文化人類学、儀式、演劇、中国、日本、アイデンティティ

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

現在主流となっているヨガ、自然治癒の技術やマインドフルネス以外にも、日本の精神や哲学に基づいた、ウェルネスプラクティスの発展やハイブリッドな形態が存在する。

「霊気」と「Contemplative Theatre」という二つの事例を人類学的アプローチによって観察することにより、現代日本社会の変化についての研究をおこなう。これらのオルタナティブで革新的な活動をおこなう人々は、開業医、芸術家、研究者が含まれており、どちらの事例も、人と人との関係を調停するためのツールとなっており、個人の発達、儀式、セラピー、教育の間に位置し、互いに作用しあいながら、現代日本の社会的願望を紐解く鍵となっている。

「霊気」と Contemplative Theatre は、一個人をどのように変えるのか。また、集団にはどのような影響を与えるのだろうか。このような、「幸福に生きる」ことへの現代社会の志向は、文化、ポストモダン社会、自由主義経済、政治的懸念、生態学、宗教などに、どの程度関係しているのだろうか。



© 小木戸利光

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

超自由主義経済が支配する超近代的社会には、「幸福に生きる」ことに対する強い社会的な制限がある。実際、超自由主義というものは、一個人の責任を中心に据えている。ひとつには、自分の幸福を含め、その人の人生で起こることすべてに自身が責任を負っている。日本では、「古典的な」サラリーマンと主婦社会のモデルが強固に揺さぶられ、身体と心の幸福を求めることが、公私ともに生活のバランスをとるための新たな関心事となっている。「霊気」や Contemplative Theatre といった、新たな仲介ツールを研究することで、現在の日本社会で何が危機に瀕しているのかを理解することができるであろう。

知的財産・論文・学会発表など

単著 『Masques en parade. Ethnicité et enjeux de pouvoir dans le Sud-Ouest de la Chine』, Nanterre, Presses universitaires de Paris Ouest, 2017年, 全573頁。

論文 「Being Han in a Multi-Ethnic Region of the People's Republic of China」, 『Asian Ethnicity』 15(4), 2014年9月: 535～551頁。

教科書 (野澤丈二と共著) NHK テキスト 毎日フランス語 応用編 「フラぶら Flânerie dans le Japon quotidien」 NHK 出版 2018年。

近現代東アジア社会科学の形成



外国語学部・国際日本学科 講師

周 雨霏

ZHOU, Yufei

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.a27f4fe2cad6fedf.html>

八王子キャンパス

キーワード：科学史、社会科学史、経済思想史

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

草創期における西欧経済・社会思想の流入は、経済学や社会学など、一つディシプリンの発展史という文脈で論じられることが多い。そのため、テキストの越境や知的ネットワークの形成といった思想的な課題が見落とされがちである。一方、思想交流史研究の領域において、二国（地域）間の思想交流を取り上げる先行研究の蓄積は豊富だが、日本によって再編成される西欧経済・社会思想がアジアへ伝播する経緯をたどるには、多言語の原典を精読する能力が求められるため、現在のところ未開拓の領域となっている。

このような状況にあって、本研究は社会科学における基礎概念（Grundbegriff）、代表的な社会学者団体及び社会科学の古典という三つの側面に注目して、アーカイブ調査やオーラル・ヒストリーの手法を用いながら、近代社会科学がヨーロッパ—帝国日本—東アジアの間に循環する「思想連鎖の環」の全体図を描きだすことを目指している。



社会政策学会第一回大会記念写真

1907(明治40)年12月22日
東京帝国大学法科大学

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

非西洋地域の社会科学に関する研究は、その地域における当該分野の発展前史として捉えられており、エピソード的な色彩を帯びていることを否めない。しかし、社会科学の歩みを辿ることによって、非西洋地域の独自の大学制度の展開や研究インフラの整備を明らかにすることができる。さらに、日本を中心とする東アジアの学問の形成を対象とする本研究は、今現在、日本と近隣諸国の学術交流に手がかりをもたらす可能性も持っている。

知的財産・論文・学会発表など

- "Social Policy, Social Thought, and Social Reform in Prewar Japan: Kawada Shirō's Analysis of Capitalism and Urban Social Problems", 『帝京大学国際日本学研究』第1号（創刊号）、2023年3月。
- "The Concept of 'Oriental Despotism' in Modern Japanese Intellectual Discourse", in *The International History Review*, 18. Nov. 2022.
- 「戦前・戦中期日本のアジア社会論における〈アジア的なもの〉—概念の形成と意味の変遷」『日本思想史学』第48号（2016年9月）。

海外における能の実践と進化



外国語学部・国際日本学科 講師

ビューニュ マガリ BUGNE, Magali

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：能楽、演劇性、比較研究、日仏文化交流

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

能は、14世紀頃に大和国（現在の奈良県）で誕生した大和猿楽から、2008年にユネスコ無形文化遺産一覧に登録された能楽まで、約700年続く伝統芸能である。能に関するアカデミックリサーチは1904年10月23日に初めて開催された坪内逍遙や高田早苗などが立ち上げた能楽文学研究会に始まると考えている。この研究会に初めて参加した外国人、フランス人宣教師ノエル・ペリが1909年から1921年まで『Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient』誌に能の分析・仏訳・解釈に関する先駆的な研究を発表し、今日まで続くフランス語圏の能楽への関心の扉を開いたのである。

本研究では、現在フランス語圏の舞台で展開されている能の可能性を検討することを目的とし、2つの補完的な研究軸を設定した。一つは、(A) 能楽とフランス演劇のドラマトウロジーを比較研究すること（図1）、もう一つは、(B) 実際に能の影響を受ける劇団を現地調査・観察することである（図2）。

上記の研究軸が融合することで、比較分析にとどまらず、国際的な知的・芸術的交流の中で、文化の融合による舞台芸術の創造的可能性を浮き彫りにすることを目指している。



図1：『三道』によるトランスモーダル化
(仏訳 2023 年出版予定)



図2：エクス・アン・プロバンス市に寄贈した能舞台での狩野流によるワークショップ (2022年)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究は、日本とフランス語圏の知的・芸術的交流に貢献しながら（研究の概要 A / 図1参照）、国際的な文化交流と他国のアーティストの活動を促進するものである（研究の概要 B / 図2参照）。

知的財産・論文・学会発表など

- « Ecrire le nô : paronomase, allusion et allégorie dans les nô du XIVe et XVe siècles », Le nô et sa postérité dans les échanges et l'histoire de la scénographie, Aix-Marseille University, 9.09.2022.
- « De l'imitation à l'émulation : intertextualité et développement d'une esthétique des passions dans le nô » (模倣から創造へ：能における間テクスト性と「情念」の美の展開) Corps et message, de la structure de la traduction et de l'adaptation, Ed. Philippe Piquier, 2019 pp. 153-164.

原田梨白 (1890-1954) を求めて



外国語学部・国際日本学科 講師

ビューニュー マガリ BUGNE, Magali

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：ジャポニスム、オリエンタリズム、日仏文化交流

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

原田梨白(はらだ・りはく、1890-1954)は、フランス語圏および日本では、1945年に出版されたポール・クローデルの詩集『Dodoitsu』に挿絵(図1)を描いた画家として知られるが、その人生については殆ど明らかになっていない。これには2つの理由がある。まず、原田梨白とポール・クローデルの間で交わされた書簡が発見されておらず、絵画の余白になされたいくつかの書き込みを除いて、画家自筆の文書はいまだ確認されていないことである。さらなる困難を生んでいるのは、当時の美術評論家の意見が分かれていることである。一方では、原田はレオナルド・嗣治・フジタのように西洋絵画の影響を受けた同時代の画家とは対照的に、伝統主義者であった学説がある。他方では、それと反対に、彼は独自に現代的な技法を実践していたとする説もある。

原田梨白はいったい誰で、20世紀前半のヨーロッパ美術界にどのように貢献したのか。本研究は、この重要な問いに答えることを目的としている。欧州と日本にある二次文献の収集(図2)や、個人コレクション、美術館、公文書館等に所蔵されている原田の作品(絵画、イラスト、歌謡曲の録音等)のカタログ化することを通じて、この画家の生涯と作品に新しい光を当てることを試みる。



図1



図2

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

原田梨白の人生について明らかとされていない点が多くある。本研究は、以下のような点で絵画芸術分野の知的交流に積極的に貢献するものである。

- 各国の現存する原田作品(個人蔵や美術館等)の所在確認・カタログ化
- 20世紀前半から第二次世界大戦後にかけての日仏美術史における知識の深化
- 原田梨白の生涯と作品に光を当てること

知的財産・論文・学会発表など

- « Harada Rihakou (1890-1954), prémices d'une biographie de l'illustrateur de Dodoitsu », Bulletin de la Société Paul Claudel, n° 231, 2020, pp. 59-71.
- [Bulletin de la Société Paul Claudel. 2020 - 2, n° 231. Autour de l'Extrême-Orient - Harada Rihakou \(1890-1954\), prémices d'une biographie de l'illustrateur de Dodoitsu \(classiques-garnier.com\)](#)
- 「原田 梨白 (1890-1954) : 20 世紀前半のフランス芸術界に貢献した日本人画家」、『帝京大学外国語外国文化』、第 12 号、2021、pp.71-78.

イギリス・ロマン派詩人シェリーの「感性の詩学」とモダニティをめぐる研究



教育学部・教育文化学科 教授

木谷 巖

KITANI, Itsuki

URL : <https://researchmap.jp/itsuki-kitani>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：英詩、P. B. シェリー、長いロマン主義、モダニティ、文学理論

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

1. イギリス文学の領域において、従来の文学史的な時代区分である「感受性の時代 (Age of Sensibility)」、ロマン主義からラファエル前派、唯美主義、ジョージ朝詩人、そして黎明期のモダニズムの時代までを「長いロマン主義」（およそ 1750 ～ 1920 年頃を想定）として捉え直した場合、ロマン派詩人 P. B. シェリーの「感性の詩学 (Poetics of Sensibility)」がその中でいかなる役割を果たしているのかについて、シェリーの詩的特徴ともいえる「天上のヴィーナス (Venus Urania)」や「観念のエロス」等の具体的なイメージ（形象）や概念を再解釈することを通じてその文学史的意義を探る研究を現在進めています。
2. 上記のような「長いロマン主義」時代においてシェリーの感性の詩学がもたらした影響——とくにヴィクトリア朝およびジョージ朝詩人に対して——を探る一方で、この新たな時代区分と不可分の関係にあると考えられるシェリーを含む「ロマン主義のモダニティ」という概念について、現代の文学理論または批評理論を参照しつつ新たな解釈や理解を提示することもまた、現在の研究目標のひとつです。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

「文学研究」という言葉は、どこか実学とかけ離れた、いわば「浮世離れ」したイメージを持たれがちです。しかし、実態としては、21 世紀の社会における主要な課題の多くが、すでに前世紀から文学研究の領域において詳細に論じられてきました。たとえば、フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティ (LGBTQ、クィア)、人種、ポストコロナリズム、動物の権利や自然の保護 (エコ) といった、現在の「SDGs」の土台となるキーワードが世に広められ (“popularized”) た経緯には、英米文学研究と現代思想の交差する文学理論や批評理論が果たした役割も少なくありません。クィア理論における「(メイル・) ホモソーシャル」(E. K. セジウィック) やポストコロナリズムにおける「オリエンタリズム」(E. サイド) といった概念は、英米文学研究の学術的成果です。普遍的な人の営みを見つめながら社会におけるひずみや矛盾を描出してきた文学というジャンルを対象にするからこそ、文学研究は現代においてたえず公平な社会の実現に向けて様々な視点や論点をもたらす可能性を秘めた、きわめて同時代的な学問であるのです。

知的財産・論文・学会発表など

〈論文・著書〉

- ・『『ダーバヴィル家のテス』における「近代の痛み」と (ポスト) ロマン主義——シェリーのな愛を導きの糸として』『近代を編む——英文学のアプローチ』秋山嘉編著、中央大学出版部、2021 年、237-71 頁。
- ・『文学理論をひらく』(編著) 北樹出版、2014 年。

〈学術発表〉

- ・「神学から詩学へ——Shelley の Adonais における Urania と「詩の擁護」」シンポジウム「サイエンスと詩の弁明」第 94 回日本英文学会全国大会、2022 年 5 月。
- ・「If You Choose to Dip Your Oar into Sentiment's Stream: A Sense of Evanescence in Shelley's "Sky-Lark" and Natsume Soseki's Aesthetic Ideas "Romantic Connections": A Supernumerary Conference of the North American Society for the Study of Romanticism (NASSR), June, 2014.

神祇祭祀にみる日本の社会構造



教育学部・教育文化学科 教授

野口 剛

NOGUCHI, Takeshi

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：日本古代史、神祇祭祀、社会構造

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

日本列島における国家はいかなる社会の中から立ち現われ、今日の形につながっているのかという関心の下に、それを主に神祇祭祀や貴族集団の形成という現象から研究している。特に延喜式をはじめとする平安時代の儀式書を中心とした分析からそれをおこなっているが、ここには今日の日本列島社会における文化的基盤ともいえる様々な事象が記されていて、人文科学全般に及ぶ汎用性を持つ研究である。

そして、それは現代の日本社会を考える上でも有効性をもち、さまざまな教育場面においても応用が期待され、また、外国に対しても日本の文化状況を理解してもらえる上で必須の方法を提供するものとなっている。



集英社『記注日本史料 延喜式』全3巻



京都 賀茂御祖神社楼門

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

平安中期に成立した延喜式という書物は、日本古代の百科事典ともいえるものであり、天皇の儀式、神社の祭祀、諸国の産物、漢方薬の種類など、およそ日本の生活文化の基層に関する事項が記されている。それは、グローバル化する今日の社会において、自らの立ち位置を見つめ直すとともに、外国の人々と交流する際にも、日本を紹介する基礎的データとなるものでもある。現在、国立歴史民俗博物館ではこの書の英語への翻訳作業が進められているが、こうした知識は観光資源の開発や日本の文化を紹介する上でも非常に役立つものである。

知的財産・論文・学会発表など

単著 野口剛『古代貴族社会の結集原理』、2016年、全262頁、同成社。

共著 虎尾俊哉編『記注日本史料 延喜式』上巻、2000年、全1139頁、集英社。

虎尾俊哉編『記注日本史料 延喜式』下巻、2017年、全1482頁、集英社。

新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史』奈良時代編・平安時代編、2022年、吉川弘文館。

戦没者遺骨帰還問題の史的研究



教育学部・教育文化学科 准教授
浜井 和史 HAMAI, Kazufumi

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：遺骨帰還、戦没者慰霊、戦後処理、戦争の記憶

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

1. アジア・太平洋戦争(1937-1945)における日本人戦没者は約310万人で、そのうち沖縄や硫黄島を含む「海外戦没者」は約240万人とされる。これら海外戦没者の遺体・遺骨について戦後の日本政府は今日に至るまで遺骨帰還(遺骨収集)事業を実施しているが、そのうち約半数の112万柱余りはなお現地に遺されたままである。
2. 本研究は、おもに外交的アプローチを用いて、この問題に関する日本と諸外国との関係に着目しながら、政府の遺骨帰還事業が戦後いかに実施されてきたのかを明らかにし、なぜ今日なお多くの遺骨が遺される状況に至ったのかについて検討することを目的とする。
3. 本研究により、戦後日本の戦没者慰霊や戦争責任、戦争の記憶をめぐる問題に新たな視座をもたらすとともに、民俗学や宗教学、社会学等との学際的な研究成果を得ることが期待される。

アジア・太平洋戦争の戦没者数と海外戦没者の遺骨数内訳(2022年3月現在)
 (数字は概数)

戦没者数	全戦没者	310万人(軍人・軍属:230万人)
	海外戦没者	240万人(軍人・軍属:210万人)
海外戦没者の遺骨数	日本国内へ送還済 (「遺骨収集(帰還)」事業による送還数)	128万柱 (34万柱)
	千島ヶ淵戦没者墓苑納骨数	37万柱
	未帰還	112万柱
	海没による収容困難	30万柱
	相手国の事情による収容困難	23万柱
	収容可能(推計)	59万柱



1953年の遺骨収集団によりサイパンに建立された「戦没日本人之碑」

出典：厚生労働省ウェブサイト

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/senbotsusha/seido01/>を参考で作成。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- 戦没者の遺骨帰還事業をめぐっては、2016年4月に「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」が成立し、2024年までが事業の「集中実施期間」に設定されたが、同法に基づいて設置された「戦没者遺骨収集推進法に基づく指定法人に対する指導監督等に関する有識者会議」の構成員として様々な提言を行なうなど、本研究で得られた知見を実際の事業に還元している。
- また、日本国内においてもほとんど知られていないこの問題について、新聞やテレビ等のメディアを通じて、解説や問題提起を行なっている。

知的財産・論文・学会発表など

著書：『戦没者遺骨収集と戦後日本』吉川弘文館、2021

著書：『海外戦没者の戦後史—遺骨帰還と慰霊』吉川弘文館、2014

アイルランドの詩・歌・バラッド文化に関する研究



福岡医療技術学部・作業療学科 准教授

三木 菜緒美 MIKI, Naomi

URL: <https://www.j-ballad.com>

人文科学

福岡キャンパス

キーワード：バラッド、詩、アイルランド文化、英語教育

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

研究の概要

「バラッド」が、20世紀末で主要なメディアであった印刷出版を通じて、教育や社会、政治、娯楽文化とどのように関わってきたかについて、特にアイルランドのバラッドに焦点を当てて研究をしています。「バラッド」とは、中世以来ヨーロッパ各地で歌い継がれてきた物語歌のこと。歌い手は、民衆や吟遊詩人で、内容は民衆が関心を持った出来事が中心となっているため、いわゆる歴史書では語られることのない人々の生活や感情、事件、娯楽の情報で溢れています。

また、アイルランドはもともとゲール語文化の国でしたので、現在のようにほぼ英語圏と変わらない文化を形成するまでに、他のヨーロッパ諸国とは違う独特な過程を経て現在にいたっています。そしてバラッドは英語習得という教育面でも大切な役割を果たしていました。また、イギリスの植民地であった貧しい時代には、多くの移民がアメリカやカナダ、オーストラリアなどに渡り、その文化を伝播していきました。この移動による文化融合のダイナミズムは現代へと脈々と受け継がれています。

国際化する現代社会において、バラッド文化を分析検証することは、国際理解教育に繋がるとともに、現代の文化・教育・社会・メディアの相関関係を分析検証するのに重要な視点を提供してくれると考えています。



19世紀、ブロードサイド・バラッドと呼ばれる「印刷されたバラッド」を売り歩く女性の様子 (Jack B. Yeats, 'A Broadside', No.9, Cuala Press, Feb. 1910)

出典) Cuala Press Broadside Collection.
Digital Library @ Villanova University

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- ・現在、「日本バラッド協会」の運営委員として、日本及び世界各地のバラッド研究者及び愛好家たちとのネットワーク形成の機会の提供に努めています。翻訳活動においては、ホームページ「英国バラッド詩アーカイブ」を運営し、141名の詩人のバラッド詩作品749編の日本語訳を製作中。現在は173篇の日本語訳を公開中。
- ・英語教育においては、流暢さを身につけるための多読や、リズムや音の感覚を養う音読やシャドウイング、論理的な英文を書くためのパラグラフ・ライティング、英語によるプレゼンテーションのスキル、映画を使ったチャンク習得など、英語運用能力獲得のための様々なストラテジーを実践・指導しています。

知的財産・論文・学会発表など

〈論文1〉三木菜緒美：Jack B. Yeats のブロードサイド・バラッド・プロジェクト：'A Broad Sheet' と A Broadside, 『エール (アイルランド研究)』(39) 48-69, 2020年。

〈論文2〉三木菜緒美：18世紀アイルランドの印刷と教育、そして大衆文学の中のバラッド文化, 帝京大学福岡医療技術学部紀要 (13) 85-116, 2018年。

〈翻訳〉山中光義監修, バラッド研究会翻訳：『全訳 チャイルド・バラッド』全3巻, 音羽書房鶴見書店, 2005-06年。

〈学会発表〉Naomi Miki: 'Jack B. Yeats: Response to Conflict in Art', Symposium "Revolutions/Resolutions: Conflict and Art", IASIL JAPAN The 37th International Conference, Zoom, 10 Oct. 2021.

〈市民講座〉講師：三木菜緒美「英語で顔痩せ!?～英語の発音と練習法」, 大牟田市生涯学習まちづくり推進本部 みんなのマナビ舎～市民大学講座～, 2016年11月26日。

古代和歌（主に万葉集）の研究



帝京大学短期大学 人間文化学科 教授

木村 康平 KIMURA, Kohei

URL : <https://researchmap.jp/read0030661>

人文科学

八王子キャンパス

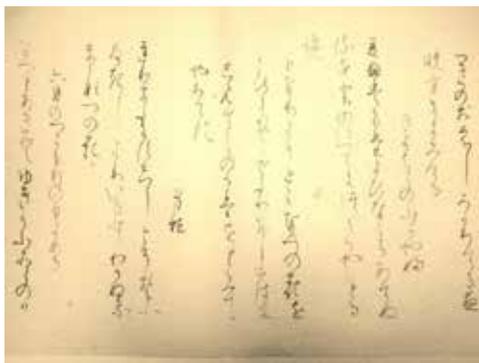
キーワード：万葉集、古代和歌の様式、呪性と信仰、神話学

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

「近江の海 夕波千鳥 汝（な）が鳴けば 心もしのに いにしへ思ほゆ」（柿本人麻呂・万葉集巻三 266 番歌）

夕刻、琵琶湖の水際で千鳥が鳴いている。その声を聞くと私も心しおれて、過ぎし世がしのばれる。672年の内乱で滅亡した近江大津宮の人々を偲ぶ歌です。作者はいつ、どのような意図でこの歌を制作したのか。細部にこだわれば、千鳥は飛んでいるのか、歩いているのか。こうした、万葉集を中心とした古代和歌の成立や表現、様式について研究しています。和歌（5・7の音数律を基調とする日本の歌）、特に短歌は7世紀の初頭に成立し、今日までわが国の文芸の中心に位置してきました。私たちのものの見方もその影響を受けて成立しています。たとえば、秋は、わが国の古称「大倭豊秋津島」に見るとおり、豊饒の季節を含意していました。それがなぜ悲しい季節と感じさせるようになったのか——古代和歌を学ぶことは私たちの感受性の成りたちについて知ることもつながります。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

古典文学の研究がそのまま実学やビジネスにつながるわけではありませんが、古典を学ぶことで、物事をさまざまな視点から、幅広く知ることができます。また、私たち自身の考え方をかえりみることもつながります。

たとえば、私たちは神社を拝礼し祈願をしても、神について特に深く考えることはありません。では、日本の神とは何か。単純化して言えば、古く、神は自然（の生命力）そのものでした。やがて、神が人の姿をとるようになり、山の麓の神社に降臨、鎮座するようになります。さらに時を経て、自然は美の対象ともなります。それはなぜ、どのようにして——こうしたことを考えることは日本の歴史や文化そのものを問うことになるはずで、つまり、私たち自身を知ることになるのです。

知的財産・論文・学会発表など

論文（単著・査読付）：「柿本人麻呂『吉野讃歌』の構想—第一歌群から第二歌群への展開—」『国文学研究』第180集（2016.10）早稲田国文学会（早稲田大学）など

学会での活動：上代文学会 理事（1995～現在に至る）、早稲田国文学会 理事（2003.4～2006.3）、早稲田国文学会 編集委員（1997.3～2001.2、2009.3～2013.2）

彝族の歴史と西南中国の歴史的動態



帝京大学短期大学 現代ビジネス学科 准教授

野本 敬

NOMOTO, Takashi

人文科学

URL : https://researchmap.jp/tsuan_wen/

八王子キャンパス

キーワード：彝族、歴史実践、アイデンティティ、文化適応、生態環境史

SDGs 目標 1：貧困をなくそう

研究の概要

中国西南地域の地域史・民族史を、地域の独自性と中華世界の拡大と包摂のせめぎあいとして、中でも中心的な役割を果たした少数民族・彝（イ）族の動態を中心に取り組んでいる。彝族は 20 世紀前半の四川省で特異な「奴隷社会」を形成したとされ、周辺漢族社会と対立したことから、「原始」「貧困」など負のイメージを付与されてきた。

しかしこれらは彝族の本性ではなく、漢族主体の国家に政治・経済的に従属させられる趨勢に抗した「自己野蛮化」戦略と理解するべきであり、歴史的に彝族は自民族の伝統と中国文化を習合させつつ、自らを支える物語りである歴史意識を強固なアイデンティティの根幹として、今日に至るまで命脈を保ってきた。彝族の「歴史」は、漢族社会への同化に抗して様々な生存戦略を講じてきた興味深い動態を示すとともに、「記憶」や口述、テキストをはじめ様々な素材に基づき、時代的な脈絡の中で要素を組み換えつつ自らを語り続ける営為として、普遍的な「歴史」全般に関わる諸課題にも示唆を与えるものである。



写真：1913 年頃の彝族の大家族



写真：彝族の司祭であり伝統知識継承者でもある「ピモ」

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

こんにち、辺境に住む「少数民族」はしばしば貧困、無知、野蛮、犯罪などの負のイメージか、或いはエキゾチックなステレオタイプをもって語られる。

しかし現代の彼らの置かれた情況は、300 年前後の時間軸より、中央からの市場論理が浸透する社会経済的な長期変動の中で、次第に従属的な地位へと追いやられる人々の間における相互の蔑視・偏見の連鎖の中での動態を捉えてはじめて実態に迫ることが可能になる。

未来に向けた生存基盤の模索や発展への展望は、歴史的な脈絡を把握したうえで得られる教訓を生かすことが必要不可欠なのである。

知的財産・論文・学会発表など

論文：「イ族にみる「歴史」の構築とその素材」

長谷川清・河合洋尚編『資源化される「歴史」中国南部諸民族の分析から』風響社, pp.171-188, 2019 年 03 月
「清代雲南武定彝族土目那氏の動態にみる官一彝関係」

『国立民族学博物館調査報告』104, pp. 27-47, 2012 年 03 月

翻訳：王明珂（原著）「蛮子と漢人」——王明珂『蛮子・漢人と羌族』抄訳——

『帝京大学共通教育センター論集』13, pp. 113-128, 2022 年 3 月

ハイデガーを中心とした現象学的な自然概念の研究



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 講師

金成 祐人 KANNARI, Yuto

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.1913b666b6756af0.html>

人文科学

宇都宮キャンパス

キーワード：現象学、自然、世界、ハイデガー、技術者倫理

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

従来の自然理解は、自然科学的に計算可能なものとして捉えられる「機械としての自然」ないし「物質的自然」と、それ固有の生成消滅の原理を有し活動する「有機体としての自然」ないし「生きた自然」とに区別されます。現象学は、前者の自然観によって隠されている人間の生活世界を取り戻し、一人称的経験から、人間と、後者の自然との関わりを捉え直すという課題をもっています。

本研究はこれまで、ハイデガーの自然概念について研究を進め、世界内部的存在者としての自然と、全体における存在者としての自然の二種類の自然概念を区別し、後者の自然概念が意味的世界の源泉となっていることを示してきました（図1を参照）。

今後は、言語的理解に先立つ身体性を含めた現象学的自然概念の画定を目指していきます。さらにこのことを通じて、人間と自然の関わりについての新しい展望を開き、ハイデガーにおける技術論の理論的背景を明らかにしていきます。

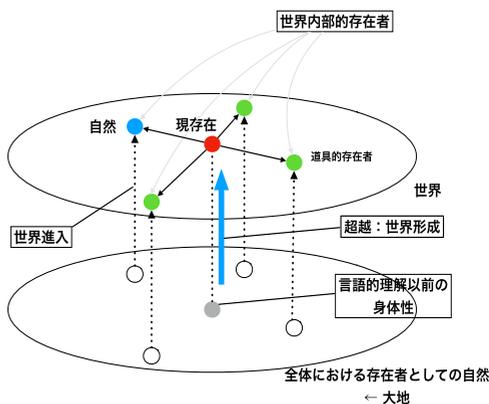


図1：世界内部的自然と全体における存在者としての自然

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

- ① 自然、身体、技術に関する基礎研究は、人間と自然との関わり、技術の展開可能性やその責任について、根本的な考察を行うものです。表面的な対応では立ち行かなくなった問題に対して、こうした基礎研究は解決の糸口を与えることができます。
- ② 原理にまで遡り論理的・批判的な考察を特徴とする哲学は、企業の研修等でも、ロジカル・クリティカルシンキングの涵養に役立ち、自由な思考は組織のコミュニケーション改善にも有効です。
- ③ 講義を担当している「技術者倫理」では、専門的な知識をもつ技術者だからこそ必要とされる倫理的問題を扱っており、一般企業にも不可欠な倫理観を伝えています。

知的財産・論文・学会発表など

1. 「ハイデガーにおける超越の問題——二重の超越とその行方——」、『現象学年報』、第37号、2021年、69-76頁
2. 「全体における存在者としての自然——前期ハイデガーにおける自然概念再考——」、実存思想協会編『実存思想論集』、第32号、理想社、2017年、109-125頁。
3. “The Experience of Nature in Heidegger”, The Organization of Phenomenological Organizations, Peabody Hotel, Memphis, USA, January 4, 2019.
4. “Heidegger and Realism”, The XXIV World Congress of Philosophy, Sections for Contributed Papers, Peking University, Beijing, P. R. China, August 18, 2018.

戦後時代小説の研究



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 講師

牧野 悠

MAKINO, Yu

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.e02b8c1e6f9314af.html>

宇都宮キャンパス

キーワード：日本近現代文学、大衆文学、メディア研究

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

昭和30年代は、時代小説史上、最も広汎な読者を獲得した黄金期といえます。その原動力が、読書界を席卷した「剣豪小説」と「忍法小説」のブームです。「柳生武芸帳」の五味康祐、「眠狂四郎無頼控」の柴田錬三郎、「くノ一忍法帖」の山田風太郎らが牽引した両ジャンルは、幅広い読者層を魅了する新奇性に満ちていました。これらの作家は、ともすれば俗悪小説の書き手として語られます。しかし、入念に作品を吟味すれば、戦後文学の問題を継承・発展させた豊かな思想性を読み取れるでしょう。



（『面白倶楽部』1958年12月号）



（『オール讀物』1955年10月号）

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

大衆文学ジャンルにおける情報の受容と加工に関する課題系および、作品と掲載メディアの関係性について、主に考察している。従来の日本近現代文学研究において、娯楽を目的とした作品は軽視され、代表的作品ですら研究の俎上に載せられることは希であった。したがって、昭和30～40年代にかけ、時代小説において絶大なブームをもたらした「剣豪小説」「忍法小説」ジャンルについての考察は、幅広く大衆に親しまれたエンターテインメントを対象とする学術的研究モデルの提示としても意味付けられるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

論文「五味康祐「喪神」から坂口安吾「女剣士」へ——剣豪小説黎明期の典拠と方法」（『日本近代文学』第78集、2008年）

論文「剣豪、もし闘わば——山田風太郎「魔界転生」のマッチメイク」（『昭和文学研究』第63集、2011年）

論文「歴史をあざむく陰のわざ——柴田錬三郎と山田風太郎の忍法小説」（『昭和文学研究』第76集、2018年）

共著『大正史講義【文化篇】』（筒井清忠編、ちくま新書、2021年）

共著『昭和史講義【戦後文化篇】（上）』（筒井清忠編、ちくま新書、2022年）

共著『忍者学大全』（山田雄司編、東京大学出版会、2023年）

現代日本語の副詞的修飾成分の習得



宇都宮キャンパス・リベラルアーツセンター 講師

林 春

LIN, Chun

人文科学

URL : https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202201008121597251

宇都宮キャンパス

キーワード：副詞的修飾成分、中間言語、学習者、母語話者

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

研究の概要

副詞的修飾成分とは、品詞としての副詞だけでなく、述語成分（VP と AP）および他の副詞的修飾成分を修飾する構成要素も指す。

- (1) 異なる母語話者の日本語学習者が産出した副詞的修飾成分の中間言語
- (2) 日本語母語話者の副詞的修飾成分
- (3) 両者の比較からうかがえる相違点

以上を調査・分析し、日本語母語話者および日本語学習者の「副詞的修飾成分」の中間言語（誤用及び正用を含む）の使用実態を明らかにした。また、日本語学習者が使用している教科書における副詞的修飾成分に関する使用上の問題点及び課題を明らかにした。その後、日本語教科書における副詞的修飾成分の語彙・用例の選定・導入順序について検討した。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

日本語教育現場における日本語学習者をはじめとする副詞的修飾成分の学習問題およびその指導方法の改善につながるだろうと思う。さらに、第二言語としての日本語習得の実証研究にも貢献することが可能であろう。

知的財産・論文・学会発表など

論文 「様態の副詞的修飾成分の学習難易度」、林春、関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化学会『言語コミュニケーション』第12号、pp.77-99、2015年

学会発表 「中国人日本語学習者と母語話者の頻度の副詞的修飾成分の使用実態」、林春、第九回日本語 / 日本語教育研究会第9回大会、2017年

現象学における身体性・世界経験の研究



共通教育センター 教授

宇多 浩

UTA, Hiroshi

人文科学

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2d429220b6c42da2.html>

八王子キャンパス

キーワード：現象学、知覚、身体、世界経験

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

現象学とは 20 世紀にドイツ・フランス圏を中心に広がった哲学運動であり、人間の主観性と世界経験のあり方を、「意識の体験記述」という方法によって探究していく学問である。とりわけ、ハイデガーやメルロポンティ以降、現象学の研究は、人間の意識や主観性を孤立した「心的対象」として扱うのではなく、その背後にある身体性や周囲の環境世界、および他者とのつながりにおいて研究する方向へと転換している。

博士論文以来、筆者はとりわけ人間が知覚によって周囲世界を経験する際に、意識の背後において作動している身体性が知覚経験にどのように関与しているのか、というテーマについて研究してきた。さしあたり、①身体的な運動性が 3 次元的な空間の構成にどのような寄与をなしているか、②身体的な運動性が日常の生活世界における意味形成（道具的な意味の形成）にいかなる役割を果たしているか、などの問題を考察してきた。

筆者はこうした知見を「病気」や「障害」などの事例に適用することで、身体性と世界経験とのつながりを、より広範な視点から考察しようと努めている。この観点から見た場合、「病気」や「障害」とは、その病因論的なアプローチとは別に、一種の「身体性・志向性の変容」としてとらえることができ、それは世界経験にも一定の変化・変容をもたらすことが想定される。そのような世界経験の変容のあり方について、今後もさまざまな事例をもとにしながら、研究を続けていく予定である。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

人間の意識やその背後にある心的現象、およびそれに 관련된 世界経験のあり方、といった人間存在に関する基礎研究がメインであるが、上述のように、それを「病気」や「障害」の事例へと応用することが可能である。その場合、それらを「健常者の世界経験の一種の変容」として捉えることが可能になる。これは「病気」や「障害」についての現象学的観点から見た臨床研究につながるであろう。さしあたりは、身体障害の事例が中心になるが、このアプローチは発達障害や認知症などの事例にも応用していくことが可能であると思われる。

知的財産・論文・学会発表など

・『知覚と志向性—フッサール現象学における知覚理論』2021 年 | 晃洋書房

患者と家族の終末期に関する希望を実現するための倫理支援開発研究



共通教育センター 教授

冲永 隆子 OKINAGA, Takako

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.a8bb0d111d82de56.html>

人文科学

八王子キャンパス

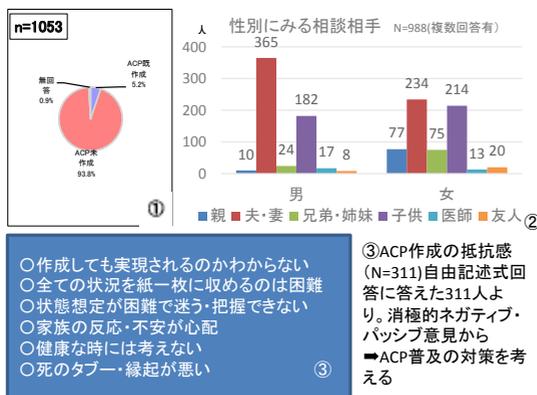
キーワード：終末期医療、意思決定、アドバンスケアプランニング

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

厚生労働省による、人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン改訂ならびに終末期医療の意識調査実施を背景に、本研究では日本人の心情が Advance Care Planning（* 本研究班では話し合いのプロセスにとどまらない文章化をめざす ACP）実施に及ぼす影響を調べた。私に関わってきた、京都大学こころの未来研究センター上廣こころ学研部門プロジェクト「患者と家族の終末期に関する希望を実現するための倫理支援開発研究」において、終末期に関する講習会に参加した 20 - 80 代の男女 1053 人を対象に、延命措置の中止をめぐる ACP・事前指示書作成に向けての質問紙調査（2014 年 8 月 - 2015 年 3 月）を行い、① ACP の実施状況、② ACP の際の相談相手、きっかけ、③ ACP 実施への抵抗感等を探った。

* 統計分析には、SPSS v.24 を利用し、単純集計、クロス集計実施後、一元配置分散分析等を使用。



① 回答者の 93.8% (988 人) : ACP 未作成、5.2% (55 人) : ACP 既作成 → 2014 年度の厚生省の終末期意識調査... 事前指示書作成に賛成の人 70% 以上に対し、実際に作成しているのは約 3% に似た結果。→ 殆ど未作成。ACP 作成の抵抗感は？

② ACP をこれから作成しようとする人たちの相談相手の傾向

男性群：妻を相談相手に選び、(女性と比べて) 親や兄弟姉妹を選ばない傾向

女性群：(男性と比べて) 夫を相談相手に選ばず、子や親、兄弟姉妹、友人を選ぶ傾向。

* 表には示していないが、既作成 55 人の回答より、相談相手の多くは夫あるいは妻、高齢になればなるほど作成傾向、葬儀が大きなきっかけであることが、ロジスティック回帰、ステップワイズ法で明らかになった。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

高齢多死社会を迎えるわが国において、人生最期の意思決定支援について考えることは重要である。厚生労働省の終末期医療ガイドライン改訂（2018 年 3 月）では自己決定を促進させる人生最期に向けてのケアとしての ACP の重要性が盛り込まれた。国民の意向に反する、過剰医療に伴う医療費負担の面でも検討課題である。本調査においては日本人の心情から ACP を促進させるために、何が希望か、何がわかりにくいのかの原因を探り、今後国が推進する ACP の普及・啓発活動に貢献できるものとする。

知的財産・論文・学会発表など（関係する最新の論文および国際学会発表等）

1. 冲永隆子『終末期の意思決定 コロナ禍の人生会議に向けて』晃洋書房、2022。
2. Okinaga, Takako, Bioethics for Support on End-of-Life Care, XXI World Congress International Association History of Religion, 22-29 August 2015, Erfurt University, Germany.

心の学びによるウェルビーイングの実現



共通教育センター 講師

筒井 史緒 TSUTSUI, Fumio

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.2fb2a9ce433174ee.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：幸福、癒し、自己愛、芸術、笑い、VUCA 時代の人材育成

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

「心の学びの実践～癒しと創造性のめざめ」

心の学びによって、創造性を解放する。

幸福に生きるための手引きを、①「心の学び」②「創造性の解放」という観点から提供しています。具体的には、①自己理解と自己愛を導くことによる心の癒し、②外的評価によって抑圧された魂の本質を解放する芸術的アプローチ、の2ステップで、「生きづらく繊細な人」が幸福に生きるための方法を考えています。

クリエイティビティの解放は、個人の幸福度を増すだけではなく、日本が VUCA 時代を乗りこなすために急務です。

個人が心を深めることで、より創造的で成熟した社会を創ることが可能になります。

本学「宗教学講義」では、TV 番組「水曜どうでしょう」が提示する、「自らを羅針盤とする」あり方と、「幸福に生きる」マインドセットとに注目しながら、講義と同時に集団カウンセリング的な実践的効果が生まれるように工夫しています。



写真：2017 年度 帝京大学八王子キャンパス文化祭

「青春祭」において、「水曜どうでしょう」

ディレクター藤村忠寿氏（中）・同郷野正道氏（右）

を迎え幸福についてのトークショーを行う筒井（左）。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

VUCA 時代を迎え、わたしたちは今、これまで通用した「いつでも再現可能な普遍的メソッド」が機能しない世界を生きることになりました。成長の頭打ちと、心を病む人の増加との根底にあるのは、内的な喜びや創造性が過小評価されてきた日本の教育・経済システムにあります。

わたしは、そうしたシステムによる副作用を癒し、より本質的な知性をもった、幸福な人を育てる実践を行っています。ワークショップやカウンセリング、人の前に立つ立場の教員やカウンセラーのための心の学びの研修を提供することができます。

知的財産・論文・学会発表など

博士論文 『ウィリアム・ジェイムズの思想—経験と超過の狭間で—』

現代日本語の程度・数量表現



高等教育開発センター 助教

蔡 薰婕

TSAI, Hsunchieh

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.8976532bed099aac.html>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：程度、数量、連用修飾、複文、日本語文法

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

ことばを通して人間を理解する

現代日本語の文法を研究しています。例えば、「このお菓子は非常においしい」は自然で、「このお菓子はたくさんおいしい」は不自然というふうに、どうやら「自然な日本語」というものが存在しているらしいです。「らしい」というのは、私は日本語母語話者ではないからです。しかし、この自然・不自然というのは、どういう基準で判断しているのか、また、誰が決めた基準なのだろうかと考えたときに、なかなか答えられません。同じ自然な日本語でも、「非常においしい」と「かなりおいしい」に対して微妙なニュアンスの相違を感じる人がいます。どう違うの？と聞いてみると、これもまた全員が納得する説明がなかなか出てこないのです。何気なく使っていることばには、よくよく考えると不思議なことがたくさんあります。このような小さな不思議をなんとか説明できると、人間のことが少しだけ分かった気がして嬉しくなります。ことばと切り離して生きることができないので、いろいろとアンテナを張ってことばの不思議を見つけては考えるようにしています。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

近年、日本語ブームと言われています。世界中に日本語を勉強している、勉強したい人がたくさんいますし、日本語に関する出版物も売れ行きが好調です。日本語に対する興味関心の多くは、文法が絡んでいます。それを分かりやすく説明し、面白く感じさせるのは文法研究です。

知的財産・論文・学会発表など

- ・蔡薰婕 (2019) 『現代日本語文の程度修飾と数量修飾の体系』日中言語文化出版社
- ・蔡薰婕 (2017) 「スケール構造を用いた程度修飾・数量修飾の分析ー「ほど」「分」を対象としてー」『日本語の研究』第13巻2号, pp.18-34, 日本語学会
- ・蔡薰婕 (2022) 「NHK「おかあさんといっしょ」の月の歌にみる、歌詞の言語的特徴」計量国語学会 第66回大会」口頭発表

植物考古学でシルクロードの食文化史を描く



文化財研究所 助教
赤司 千恵

AKASHI, Chie

人文科学

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

八王子キャンパス

キーワード：植物考古学、キルギス、食文化、シルクロード

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

植物考古学というのは、遺跡から出てくる植物の遺体（種子、果実、材など）を分析し、当時食べられていたもの、栽培されていたもの、薬、燃料などを調べる、考古学の一分野です。得意とするのは、農耕のはじまり、栽培作物の伝播などの研究ですが、文献資料が豊富な歴史時代であっても、庶民の日常の食文化などは書かれていないので、食文化史を復元するのに植物遺体の分析は欠かせません。

例えばシルクロードを介した東西交流にかなする研究は多くありますが、交易路沿いの各都市で何が食べられていたのかが分かる文献資料は限られています。そこで、文化財研究所とキルギス共和国が共同発掘調査をおこなっている、中世交易都市アク・ベシム出土の植物種実を分析し、当時の食生活についての研究を進めています。

アク・ベシムの主な食用植物は、オオムギ、コムギ、アワ、キビなどの穀類、レンズマメ、エンドウなどマメ類、ブドウ、リンゴ、ニフトコなどの果樹類です（図1）。しかし出土植物は、都市の中でも地点によって異なっているほか、時代によっても変化があるようです。カラハン朝以前と以後では、コムギが減ってアワが増加するなど、主食からして大きく異なっており、都市民と遊牧民との関係を反映しているのかもしれません。

今後は、4種類出てくる穀類を、どうやって食べていたのかを復元するのが課題となります。アク・ベシムにはさまざまな文化集団が共生しており、集団によって、料理文化にも違いがあった可能性があるからです。



図1 アク・ベシム出土植物

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ヒトが最初に栽培化した植物の中には、アインコルンコムギ、エンマーコムギなど「失われた作物」もありますが、最近ヨーロッパなどではこれらの植物の持つ価値が見直され、再び脚光を浴びようになっています。日本にも、ヨモギを虫よけに使う、棕櫚でホウキを作るなど、昔ながらの植物との関わりがあります。そのような植物利用史を植物考古学を通して知ることは、これからの食の在り方、自然との共生の在り方についての新しい視点を導くことに繋がります。

知的財産・論文・学会発表など

- Akashi, C., Tanno, K., Guliyev, F., & Nishiaki, Y. (2018). Neolithisation processes of the South Caucasus: As viewed from macro-botanical analyses at Hacı Elamxanlı Tepe, West Azerbaijan. *Paléorient*, 44(2), 75-89.
- 中山誠二・赤司千恵. (2019). アク・ベシム遺跡の植物遺存体. *帝京大学文化財研究所研究報告*, 18, 19-41.
- 赤司千恵・門脇誠二・F. キリエフ・西秋良宏 (2020) アゼルバイジャンにおけるヨモギ属 (*Artemisia* spp.) 利用史. *植生史研究*. 28(2), 59-70.

石材獲得と石器流通に関する研究



文化財研究所 講師

金井 拓人

KANAI, Takuto

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：石器石材原産地推定、水晶、黒曜石、文化財の活用

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

文化財研究所のある山梨県では、先史時代の遺跡から黒曜石や水晶の石器が数多く発見されている。しかし、これらの石器が石材の状態で流通し消費地で加工されたのか、特定の中継地で石器に加工された後に流通したのかといった、石材獲得・石器製作・流通の体系は明らかになっていない。

ここ数年の研究により、黒曜石、水晶ともに帝京大学文化財研究所にて原産地推定を実施する環境を整え、近年ではいくつかの研究成果を報告できるようになっている。今後は石材獲得から流通までの原石・石製品の移動体系を明らかにするために、さらに多くの遺跡を対象として遺物の原産地推定を実施していく計画である。

それと同時に、可搬型の装置を用いた分析環境についても分析条件のテストを行っており、今後は遺物を収蔵環境から移動させずに分析を行うことや、発掘現場でオンサイトで分析を行うことを目指す。



出土石器の例と石材の主要な原産地

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

山梨県にある日本遺産のうち「星降る中部高地の縄文世界」、「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」はそれぞれ黒曜石と水晶に深い関りを持っている。特に水晶宝飾産業は地域の地場産業として重要なポジションにあり、本研究により石材という地域資源の歴史的背景が確立されることで、山梨県の宝飾産業を中心とした地場産業の正しい歴史理解とブランド価値を向上させることが期待できる。また、廃鉱山は新たな観光資源としての開発にも期待されており、一部の自治体とは観光資源開発に向けた取り組みを始めている。今後はさらに幅広く研究成果の社会への還元を促進したい。

知的財産・論文・学会発表など

- 金井拓人・池谷信之・隅田祥光, 2022, エネルギー分散型蛍光 X 線分析を用いた非破壊かつ装置非依存式の黒曜石原産地推定, 文化財科学, 85, 1-14
- 金井拓人・保坂康夫・金井麻美, 2020, 水晶の産地推定：山梨県内の 4 つの縄文遺跡における例, 文化財科学, 80, 1-16
- 金井拓人・一之瀬敬一, 2020, 埼玉県反町遺跡出土水晶の原産地, 考古学ジャーナル, 738, 27-30

考古学的にみた居住システムと地域圏の形成



文化財研究所 准教授

榎原 功一

KUSHIHARA, Koichi

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：土器型式、住居型式、居住空間、集落構造

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

研究の概要

考古学が研究対象とするのは、人びとが暮らした土地である。そこには人びとが活動した時間が遺構、遺物とともに蓄積されている。時間を紐解きながら、人びとがどのような観念にもとづき、どのように暮らしてきたのかを明らかにするのが研究の目的である。

縄文時代の始まりをいつからとするか議論があるが、人びとが移動生活をやめ、定住すると集落が形成され、土器作りが発生し、多数の土器型式が各地で発達した。竪穴住居は定型的になり、建築材にはもっぱらクリの木が利用された。集落は人間関係を反映して形成され、居住空間や土地利用が意識されるようになる。また特徴的な山を背負い、大がかりな環状列石を集落内に形成した例があり、当時の世界観を読み取ることができる。さらに土器型式の広がりやモノの流通から地域圏の形成、社会化の進展が明らかとなる。このようにして縄文時代は1万数千年にも及び、世界的にも自然との共存関係を良好に長期間維持した、安定的な時代として評価されている。

縄文時代における居住システムや地域圏の形成過程、それを支えた精神文化を土器や住居、集落構造等から明らかにすることは、私たちが伝統的な暮らしを目指すうえで、きわめて示唆に富むものとなるだろう。

写真上：山梨県北杜市明野町の国史跡梅の木遺跡の復元住居。竪穴掘削時の土を屋根に被せた土葺き屋根として復元されている。**写真中：**梅の木遺跡で、当時の暮らしを再現する縄文人。**写真下：**博物館教育論の授業では、縄文時代の土鈴製作のワークショップを通じ、縄文時代の暮らしを学ぶ。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

縄文時代は長期間維持された安定的な時代である。とはいえ数百年にわたって集落を連続的に維持した例はほとんどなく、何らかの理由で集落は衰退、消滅、移転を繰り返している。急激な人口の増減、寒冷化や自然環境の変化などの理由で集落を放棄せざるを得なかったケースが想定され、それは集団を維持するための手段であったと考えられている。直面するさまざまな課題をどのように解決し、乗り越えたのか、縄文時代の研究を通して、私たちの生活へのさまざまな教訓を得ることができる。今日の社会のあり方、実生活において、縄文時代に学ぶべきことは多々あるだろう。

知的財産・論文・学会発表など

参考文献

- ・ 榎原功一 2009 「北陸・中部地方の縄文集落と世界観」『シリーズ縄文集落の多様性Ⅰ 集落の変遷と地域性』雄山閣
- ・ 榎原功一 2009 「竪穴住居の型式（中期）」『縄文時代の考古学』8 同成社
- ・ 榎原功一 2011 「石厨戸の象徴性」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』15
- ・ 榎原功一 2015 「竪穴住居における縄文尺の検討」『縄文時代』26 縄文時代文化研究会
- ・ 榎原功一 2016 「住居型式と集落形成」『考古学の地平Ⅰ—縄文社会を集落から読み解く—』六一書房

6～9世紀における古代トルコ系遊牧民と「移動」



文化財研究所 講師
齊藤 茂雄

SAITO, Shigeo

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：古代トルコ系遊牧民、中央ユーラシア史、中国北辺史

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

私はこれまで、歴史上の国際関係において発生した移民・難民の動きと、移動において発生した歴史上の影響について研究してきました。ここまではよくあるテーマですが、私の研究の特異性は、それを7～9世紀という古代ユーラシアを舞台とし、遊牧民という移動生活を常とする人々を対象に行っていることです。遊牧民は難民といえど気を抜かず、1人1人が高度な騎馬軍事技術を持った熟練の戦士たちでした。そのため、移民・難民を受け入れる側であった中国の唐は、軍事反乱の危険性がある一方で傭兵にできれば強力な遊牧民たちを、十分優遇しつつ軍事利用をしていました。遊牧民の人々も優遇されることを承知の上で、唐と故郷を行き来するような生活を送っていました。この時代の移民・難民は強かでも悲劇の存在とは言い切れないのです。ステレオタイプには捉えきれない歴史のリアルがそこにはあります。



モンゴル高原の草原

る側であった中国の唐は、軍事反乱の危険性がある一方で傭兵にできれば強力な遊牧民たちを、十分優遇しつつ軍事利用をしていました。遊牧民の人々も優遇されることを承知の上で、唐と故郷を行き来するような生活を送っていました。この時代の移民・難民は強かでも悲劇の存在とは言い切れないのです。ステレオタイプには捉えきれない歴史のリアルがそこにはあります。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

現在では「移民・難民＝不幸」が常識のように語られますが、はるかな過去の世界ではそうとは言いきれなかったこともありました。過去の世界には、現代の常識を簡単にひっくり返すような事例がごろごろあります。ゲームチェンジャーとなるような新たな常識を生み出すために、過去の世界に目を向けてはいかがでしょうか。

知的財産・論文・学会発表など

- 齊藤茂雄 2015：「ムーラン——敵側から見た歴史世界——」藤川隆男／後藤敦史（編）『アニメで読む世界史2』東京，山川出版社，pp. 13-32.
- 齊藤茂雄 2016：「古代トルコ系遊牧民の広域秩序」『アステイオン』84，pp. 99-114.

金属文化財の科学的調査による研究と保存



文化財研究所 准教授

藤澤 明

FUJISAWA, Akira

URL : <http://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：保存科学、文化財科学、産地推定、保存修復、国際協力

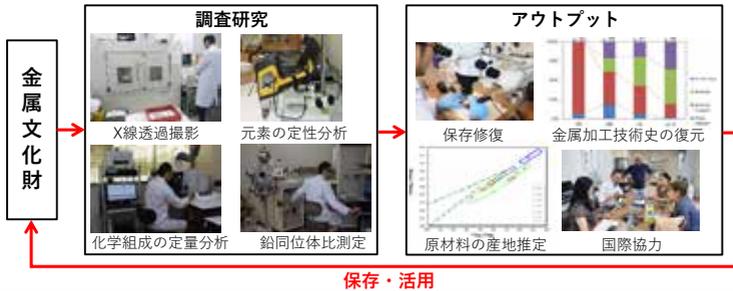
SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

研究の概要

主に金属文化財を対象とし、診断分析、材質・技法調査などを通して得られた情報から、文化財の保存や当時の金属加工技術・流通について研究を行っている。具体的な研究は以下である。

1. ジョージア(旧グルジア)において、紀元前35世紀から紀元前7世紀までの銅合金製資料を対象とし、合金種の同定および金属材料の産地推定を行っている。
2. イランにおいては初期鉄器時代(紀元前10世紀)を中心とする銅合金製資料の診断分析および保存修復を行っている。
3. 中央アジアではキルギスおよびウズベキスタンにおいて古代から中世に至る金属製品について、合金種の同定および金属材料の産地推定を行っている。
4. 国内では、指定金属文化財や被災した文化財の保存修復研究を行っている。
5. 保存科学および保存修復の分野において、国際協力にかかる研修事業やインターンシップを実施している。(実績：エジプト、イラン、シリア、ジョージア、キルギス)



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

文化財の保存および内在情報の抽出は、歴史研究だけでなく文化財の活用に必要なであり、人類社会が豊かな文明を築くことに寄与できる。

文化財は工業製品と異なり一つ一つ形態や状態が異なるため、その調査に適した機器や分析手法の開発が求められている。特に非破壊もしくは微破壊による精度の高い調査手法の開発が必要である。同様に保存修復に求められる技術や材料についても常に開発していく必要がある。特に多用される合成樹脂についてはより化学的に安定した材料の開発が必要である。

知的財産・論文・学会発表など

- 藤澤 明, 三浦 麻衣子: 2019 年度アク・ベシム遺跡出土の金属製品の保存修復処置と使用された銅合金種, 帝京大学文化財研究所研究報告, 19, pp177-192, 2021
- Taher Ghasimi, Masoud Akbari, Mujtaba Ghasemian, Akam Ghasimi, Mohammadreza Ghadri, Farnak Bahrololoumi Shapurabadi, Akira Fujisawa, Hossein Davoudi, Laura Manca, Navid Salehvand, Moloud Azimi, Efqal Azizi, and Davoud Agha Ali Gol: Ruwar Tomb : New Insights into Material Culture, Burial Practice and Bioarchaeology of the Iron Age Communities in the Hawraman Mountains, Kurdistan, Iran, Bulletin of MIHO MUSEUM, 21, pp111-127, 2021

シルクロードにおける文化接触と諸民族の共存



文化財研究所 教授

山内 和也

YAMAUCHI, Kazuya

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/bunkazai/>

人文科学

八王子キャンパス

キーワード：シルクロード、スイヤブ、都市民、遊牧民、水と人間、文化接触、異文化と諸民族の共存

SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

研究の概要

ユーラシア大陸を東西に結ぶシルクロードは、絹に代表される物資の交易の道であると同時に、文化や芸術、宗教、技術が伝わった「道」でもあった。さらには、このシルクロードという舞台は、人びとが出会い、新たな文化、文明を生み出した場として人類の歴史上きわめて重要であった。本研究では、かつて「スイヤブ（碎葉）」と呼ばれたキルギス共和国の北部に位置するアク・ベシム遺跡の考古学調査を核とし、発掘調査及び周辺の遺跡の踏査、そして自然環境、とくに地形学的調査を通して、以下の点を解明する

- ① 人と自然環境、とくに人と水の関係、つまり人がどのように水を利用してきたかを研究することで、諸民族、とりわけ都市民と遊牧民の共存がなぜ可能であったかを明らかにする。
- ② スイヤブは、シルクロードの交易の民であるソグド人が建設した街と中国の唐王朝が建設した軍営地が隣り合う遺跡であることから、その双方の発掘調査を行うことで、文化接触の実態を具体的に明らかにする。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究では考古学的な調査が核となっているが、その一方で、人間と自然環境の関わり、さらには異なる文化や民族、宗教が共存するシルクロードという世界を解明することが大きな目標となっている。その意味で、相次ぐ紛争やテロによって不安定となっている現代社会を考えるための研究であり、SDGsの目標 16「平和と公正をすべての人に」に貢献できるものである。

知的財産・論文・学会発表など

論文：山内和也・榊原功一・望月秀和 「2017年度アク・ベシム遺跡調査報告」『帝京大学文化財研究所 研究報告』第17集 2018 121-168.

一般書：共著『読む事典 シルクロードの世界』NHK出版 2019年2月 国際シンポジウム発表：共同発表「スイヤブを掘る」国際シンポジウム「シルクロードを掘るーいま蘇る、いにしへの道」帝京平成大学中野キャンパス 2019年1月23日

人間存在の哲学的探究



先端総合研究機構・ヒューマニティーズ部門 特任教授

羽入 佐和子 HANYU, Sawako

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.cc45ebaeb47a0af0.html>

人文科学

板橋キャンパス

キーワード：ヤスパース哲学、科学と哲学、理性、実存、コミュニケーション

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに
SDGs 目標 16：平和と公正をすべての人に

〔研究の目標〕

哲学の主要テーマである存在や認識に関して、特に人間存在の科学的探究と哲学的理解の共通点や差異について考察し、それぞれの思考の特性を明らかにしたうえで人間についての新たな存在観を示す。

〔研究内容〕

ドイツの哲学者カール・ヤスパースの思想を主たる研究対象としてきた。

その思考法と存在観には、科学技術や情報化の時代において人間がいかなる存在であるかを解明する手がかりがある。

ヤスパースは、自身の医学的知識と臨床の経験を活かして人間存在の理解を試みた。その特色は、認識の多様な在り方を示し、存在を多面的に把握した点にあり、特に多様な存在を思惟する「理性」を重視し、人間を個々の特殊な存在（「実存」）として把握した点が評価される。

ヤスパース哲学のこの特色を手がかりに、科学的思考と哲学的思考の関係や、現代の社会状況における人間という存在の特性について考察している。

〔今後の課題〕

人間と AI の関係に象徴される現代の科学技術と社会の問題を、理性と実存の観点から検討し、他分野の研究手法とその成果も視野に入れながら人間存在とは何かを再考する。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

社会活動の多くは具体的で可視化可能な成果を基準に評価されます。また、現代の情報化社会では価値の多くは数量化され、あるいは情報化され、それによって社会は急速な発展を成し遂げてきています。そしてこの発展の恩恵を受けながらも、そもそも社会の発展とは何か、人間とは何か、を改めて問うことが求められているように思われます。

そこで、これまでの研究活動と大学や研究機関などでのマネジメントの経験を基に、哲学的なコミュニケーションを組織運営に取り入れることによって企業や人の活動の意義を見出す試みに寄与できればと考えています。

知的財産・論文・学会発表など

〔著書・編著〕

- ・羽入佐和子著『思考のレシピ』ディスカバー・トゥエンティワン 2014年
- ・羽入佐和子著『ヤスパースの存在論—比較思想的研究—』北樹出版 1996年
- ・羽入佐和子編著『科学に学ぶ心の教育』日本図書センター 1999年

〔研究論文〕

- ・ 'The Role of Reason in Scientific and Technological Age from the Perspective of Jaspers' Philosophy', in *Karl Jaspers: Historic Actuality*, ed. by Andreas Cesana / Gregory J. Walters, Königshausen & Neumann, Würzburg 2008, pp.161-170.
- ・ 'Existenz Philosophy in this informational Age, in *Karl Jaspers' Philosophy: Rooted in the Present, Paradigm for the Future*, ed. by L.H.Ehrlich and R.Wisser, Königshausen & Neumann, Würzburg 2003, pp.265-270.